



Forbidden pleasure

～禁じられた悦楽～

画・若本エロモンド唯夫





寒

話

。



淫

乱

○



謎の男達に捕まり、拉致されあられもない恰好をされた、

小夜……

キャー

!!

「古きもの」と戦えるその強靱な力も

人間を殺せないという一つの括りにより、

ただただ無力でしかなかった……。





はなせ!!

!!

セウ

「ゲへへ♡これがあの噂の…」

殆ど人間と見た目変わんねえなあ、いいぜ♡

ヒヒヒ♡しかし案外簡単に捕まえられたなあ♡

古きものは殺せても

人間を殺せないというのは本当だったようだぜ♡」

「くッ！何者だお前達、私にこんな格好に…」

こんなことをして、文人の手のものか!？」

「関係あるといえるが部下じゃあないぜ、

だから今から何が起きるか大体わかるだろう？へへ♡」

「下衆が…!!」

「ハハハ♡そのザマで言われても滑稽なだけだぜ♡

その悔しそうな顔が却って劣情を催す、

楽しませたもらうぜ、バケモノ♡」



『ッ、んっ…』

『うッは♡こりやスゲーぜ♡』

『キサマ…その汚い手を今すぐ…』

『こりや人間でも早々お目にかかれねえぜ♡

スゲー乳だ、乳首の先っぽもプリプリしてて、触感たまんねえ♡』

『うあッ…!!』

『しかもへへへ♡

満更でもないみてえだな♡指を動かすたびに

吐息が、声が漏れてやがるぜ♡』

『くッ、!!』

『へへへ♡にゅぐにゅぐエロい音がかすかに聞こえるぜ♡』

『んあッ、…あッ!!言う…なあッ!!』

『俺達にも早く変わってくれよおw』

『へへ♡急かすなって、夜はこれからだ♡』

「んっ、んぞっ、

んっんっ♥んぞっ、」

「くっくっ♥ぞんぞん吐息が色のぽくなるなあ♥

先っぽも徐々に固くなるっってきたぜ♥」

『外道が……ッ、はあッ♥』

「ハハハ♥その強気な発言も、今やただ空しいだけw

俺たちの股間にしか響かねえぜw」

くっっ、文人でもないこんなどうでもいいような奴らに

んっ、こんな屈辱を与えられるなんて…悔しい…!!」





『ハハハ♡乳吹き出しやがった♡バケモノ新だ♡♡♡♡♡呻くわー♡』
『ううッ…』

（くそう…屈辱だ、こんな奴らにこんなブザマを晒すなんて…）
『ハハッ、オイ、お前ら飲むか？バケモノの乳？ミルク？』

『さすがにいいわ、俺達までバケモノになりたかねーもんW』

『そりやそうだ、ハハハ♡』

『…今すぐお前達を髑り殺しにしてやりたいッ…!!』

『できねえことを強い言葉でいうなよW陳腐だぜW』







ん

ん

ん

んんん

んんん

『くくくく♡乳にバケモノミルクがべたついて』

小さい音で又チ又チいやらしい音が呻らてやがるぜ♡』

『あうう、ぐああ♡』

『オイイ。。。そるそるいいたるう？』

俺達チンヨバキバキだぜ？そるそるよお？』

『くくく♡そらだな、そるそる次のステップ行くか、くくく♡』

くそう、これ以上こんなやつらに好きにされてたまるか!!。。。んぐツ♡』



XO
Diva





2

新話



『くっツ!!』

『ハハハ♥見るよヨレ♥トロトロじやねえかWヒヤハツハツ♥』

『そんなこと……ないツ!!』

『よく言うぜ♥本当はチンポが欲しくて

ほしくて仕方なかつたんだろ? そういえよW』

『すげえ期待してるじやねえかW』

このちもギンギンだぜ♥もう挿入ちまうか♥』

『この小奇麗な肌に俺の先端ブチかましてよお!! いっぱい汚してえぜ♥』

『くっツ、やめろ……私に触れるなツ、

……ああっ♥』



「へへ♡今度は俺からだぜ文句ねえわなの？おとおおおッ挿入っていくっ♡」

「んぐツ!! ぐうツ!!」

「あああ♡やべ♡予想以上に絡みついて…♡これ、すご♡」

「ああっく…やめるツ…もうっ、…抜いて…ツ」

「あああ挿入る挿入る、どんどん挿入るよ♡」

「くあッ♡ああッ♡んああっくツ!!」

「フンツ!!」

「んぐうツ!!」

「くあああ♡」

「へへ♡挿入っ…たあ♡全部♡」



（ううッ・・・お腹に異物が入ってきてきて気持ちが悪いです）

『うおおお♡こりやいらいぜ♡膣が又回又回で

温かい♡こりやあ腰が止まらんぜ♡』

『やめるッ・・・んぐッ・・・!!動か・・・すなあッ!!あああ♡』

『♡♡♡何を言っつてやがる♡こんな名器になんて

一生お目にかけてられないんだ、犯りまくるしかねエだろお♡』

『あううっ、んあッ♡

はあッ♡んああッ♡』

『なんでえ♡満更でもねえじやねえかWもっとなしもうぜ♡』

『そんな訳ないッ・・・!!んぐっ♡不快なだけだッ♡、ッんああッ♡』

『ハハハ♡今のそのザマじや、罵倒も逆効果にしかなんないぜ♡』

『くそっW俺達も早く犯りたいぜ!!早く変わってくれよ♡』

（くそッ、人間達なんかこんな・・・）

抵抗もできずに犯されてしまうなんて・・・ッ、私はッ!!）





『ふうっ♡いつぱい出しただぜ♡』

『ハーツ♡ハーツ♡』

『てめツ!! 膣に出しやがった、こいつ、信じらんねえ!!』

『あ〜♡わりいわりい♡てか、あんなんガマンとか無理だぜ、

ヤッてみるよ、わかるから』

『あうっ…♡んああ…♡』

『膣出した後犯すの嫌なんだよなあ、男も犯してる気分になるし、』

『いいからいいから、そんなのブツとぶぜ♡マジで♡』

『あくっ…♡んああ…♡』

『つか、さっきから余韻凄いなこの化け物、また勃起してきたぜ♡』

『七原、最初この化け物狙ってる噂で聞いたときは、

ああ頭イツちまったと思っただが、なるほど、

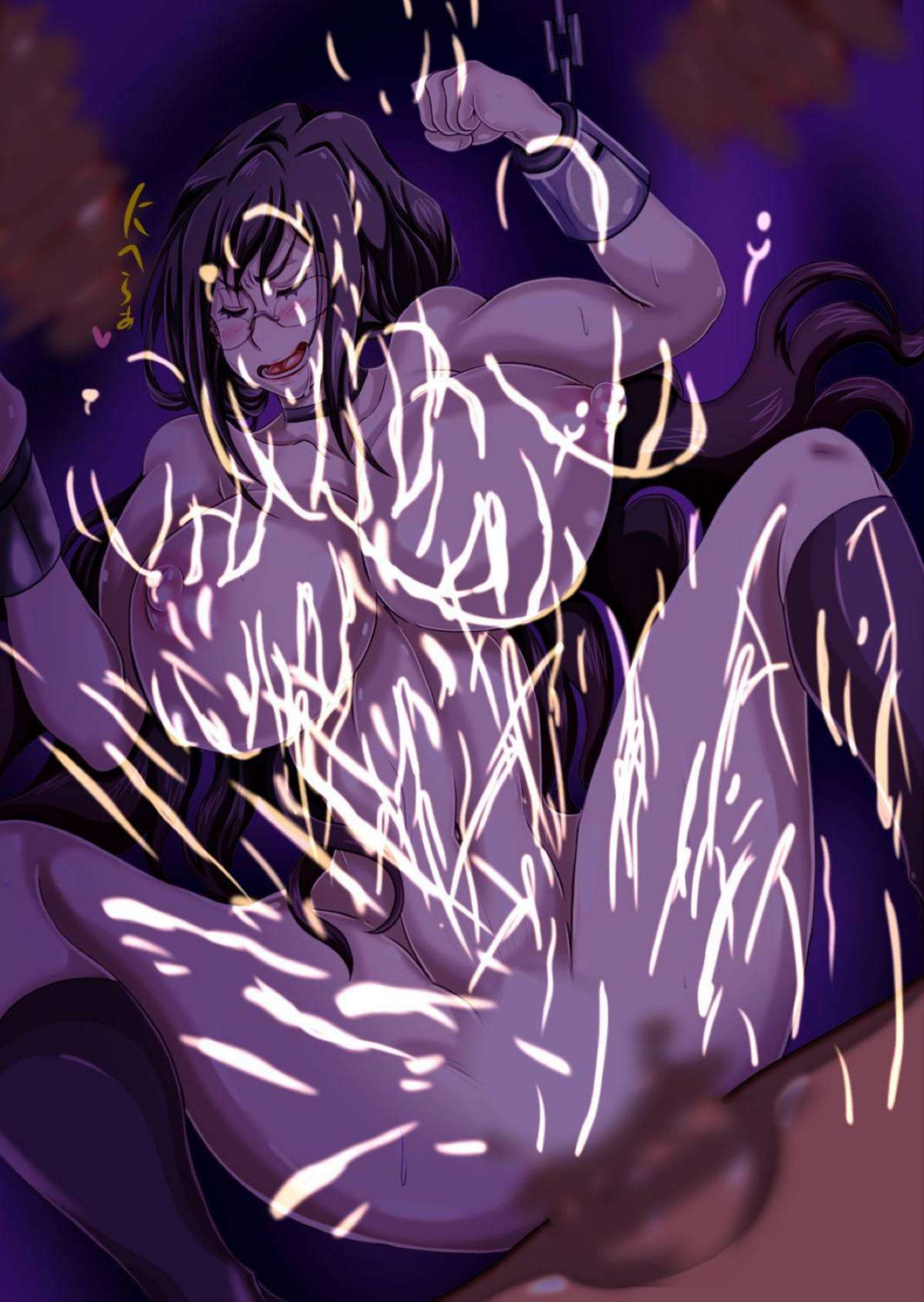
人間にはないモノがあるな♡俺もまたすげえ勃起してる、

この身体といい名器といい、この声といい、ホントエロいわ』

『あうう…♡文…♡人お…♡』

『やべえ♡挿入る前にこくまるなのが爆発しそうだ、くそツ、出すぞ!!』





下
から
よ

ニ



III

話



あうう...♡

うあ...♡
ああ...♡

きん...♡
きん...♡

きん...♡

きん...♡

きん...♡

『うあっ…♡やああ…♡あうう…♡』

『へへ♡犯すのもいいが、俺はまずパイズリにさせてもらおうぜ♡』

うっは♡すげえやあらひえ♡』

くっ、私の胸がこんなやつらの汚い物に…汚らわしい…♡』

まじでうっ

『あ〜おっぱいがフヨフヨしてて気持ちいいぜえ…♡』

ああでも、もうちよっと圧迫してくんねえかな、

と思っただけど、拘束してるから無理か、』

『じゃあ俺が後ろから、支えてやんよ♡』





んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

『くくく♡♡♡♡♡』

『ふぐっ♡んんっ♡いやあ♡』

『うお〜♡やべッ♡すげえ乳圧♡』

柔らかなさの中に確かな圧迫感がある

無重力感（？）なんだこれ♡』

『触る。。。なあッ♡』

『やべエよwこりやあちよっとしたこととで出ちまうぜ♡』

素肌がほんのり冷たくて気持ちいい、

寒い冬場に毛布無しで布団をひいた、冷たくも

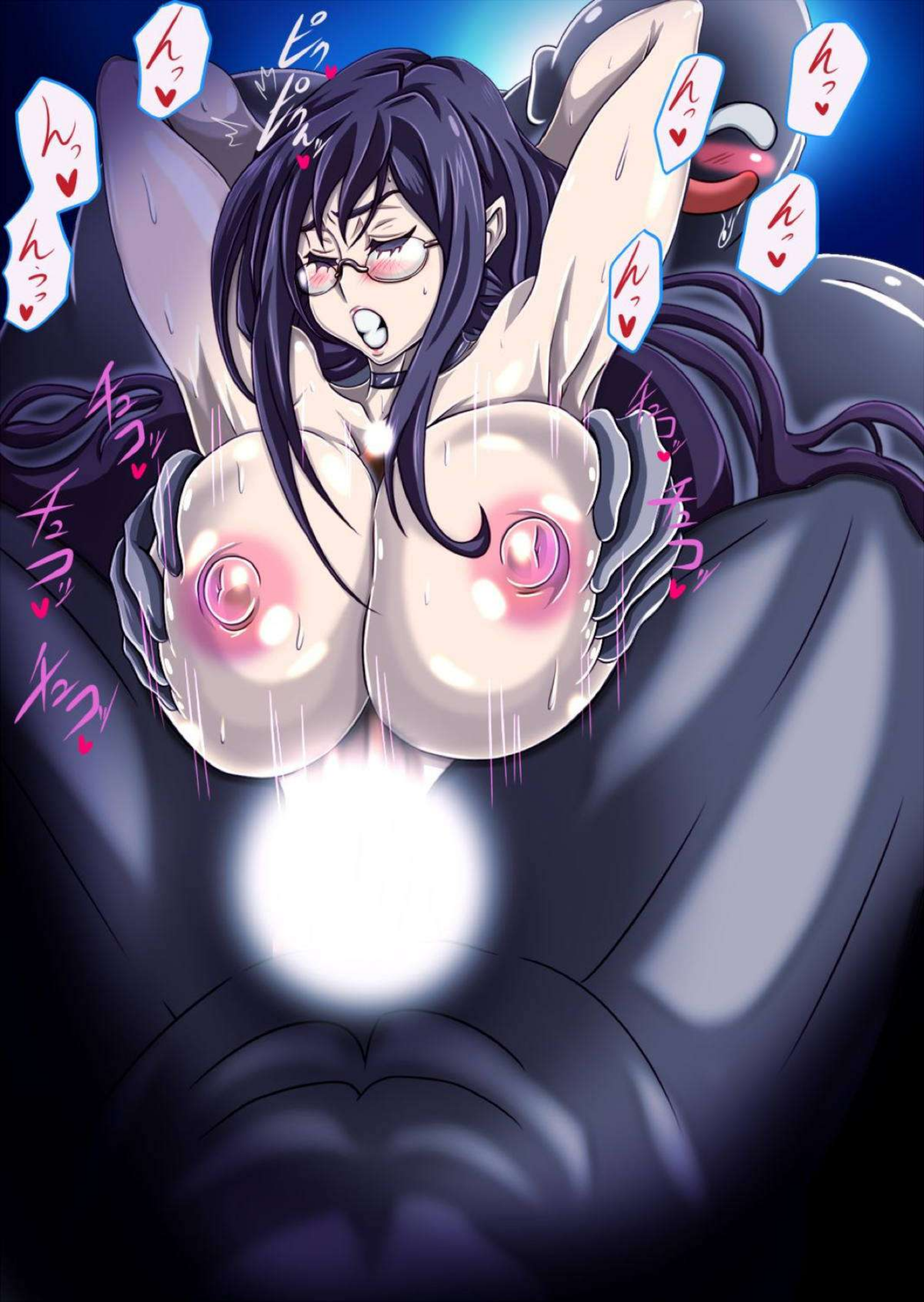
何故か心地よい布団を人肌に

したような感じがたまらん♡』

『気持ち。。。わるいッ♡』

『満更でもねえんだろ？本当は♡』

『いせ、いせ、それじゃあ耐えきれなくしてやるよ、お前ら♡』



チュウヨ♡チュウヨ♡チュウヨ♡チュウヨ♡

「んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」

「変態みたいだなヤペエ♡チュウヨチュウヨ乳の

こすれる音がたまんねえ♡音だけでもイキそうだった♡」

「はあっ…♡やめるお♡こんなあ♡」

「へへへ♡よく言うぜ♡乳首ぷっくり

勃起しておいて何を言うか♡それっ♡それっ♡」

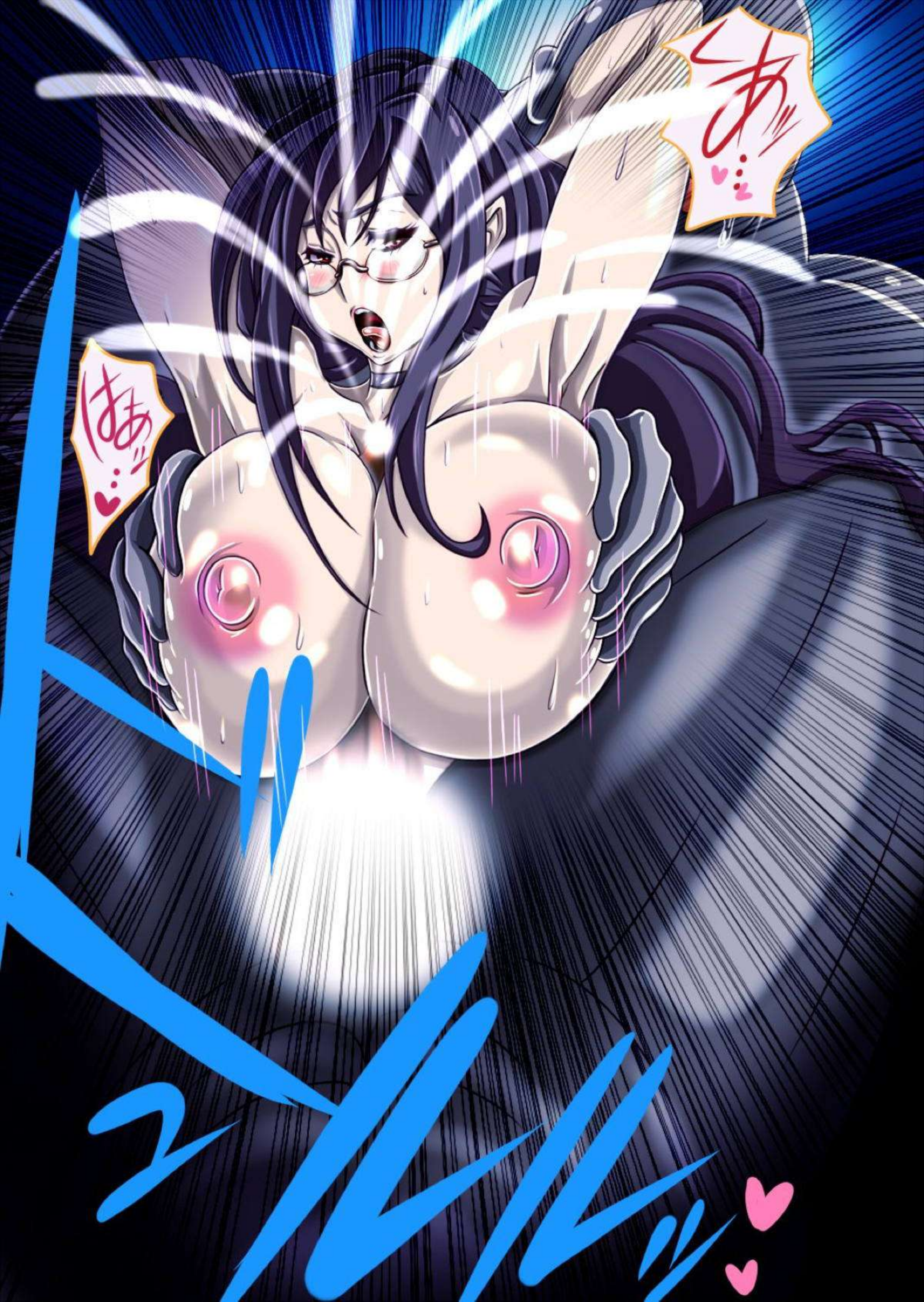
「あっ♡やっ♡あっ♡はっ♡んあっ♡はっ♡んっ♡」

「我慢しても声が漏れてるぜW全身性感帯♡おらいケよ、イケイケ♡」

「ああ♡いやあ♡こんなものっ…♡こんなものっ…♡」

「俺もイキそうだった!!しっかり顔で

受け止めてくれよオツ♡」



あゝ

あゝ

あゝ





心口木



『ふう♡すげえいっぱい出たぜ♡』

『あぁっ…♡はぁっ…♡』

『でもまだまだ収まりそうにねえぜ、』

この汁でテカテカの感じがたまんねえ♡』

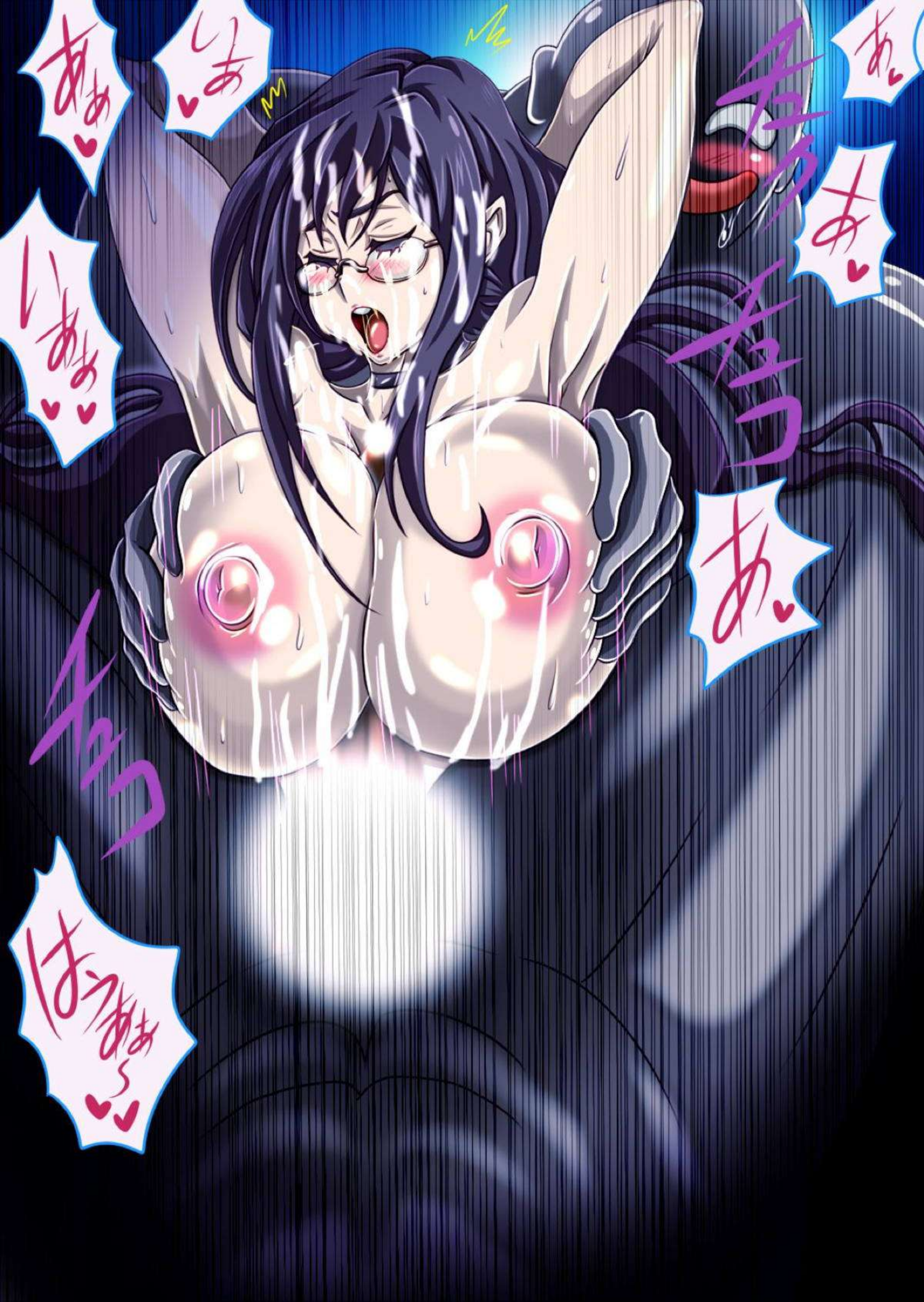
『はうっ…くうっ♡』

『もう「度いいか?」』

『へへ、しよすがねえなあwもう一回だぞお?』

くう、んう♡凄いいいだ…鼻にツンざく

思考がどんどんあいまいになっていきそう…このままでじゃ…)



ああ♡

うう♡

ああ♡

うう♡♡

ああ♡

うう

ああ♡♡

うう

『あ♡あ♡あ♡いあ♡ああ♡いああ♡はうああ♡』

『おおお!!こりやすげえ!!精液が

胸の中で混ざって、さっきよりシゴキが増してやがる♡』

『おらッ!!イケッ!!イケッ!!♡』

『あうあ♡ダヌッ♡これ以上ッ♡おっぱいオオオッ♡』

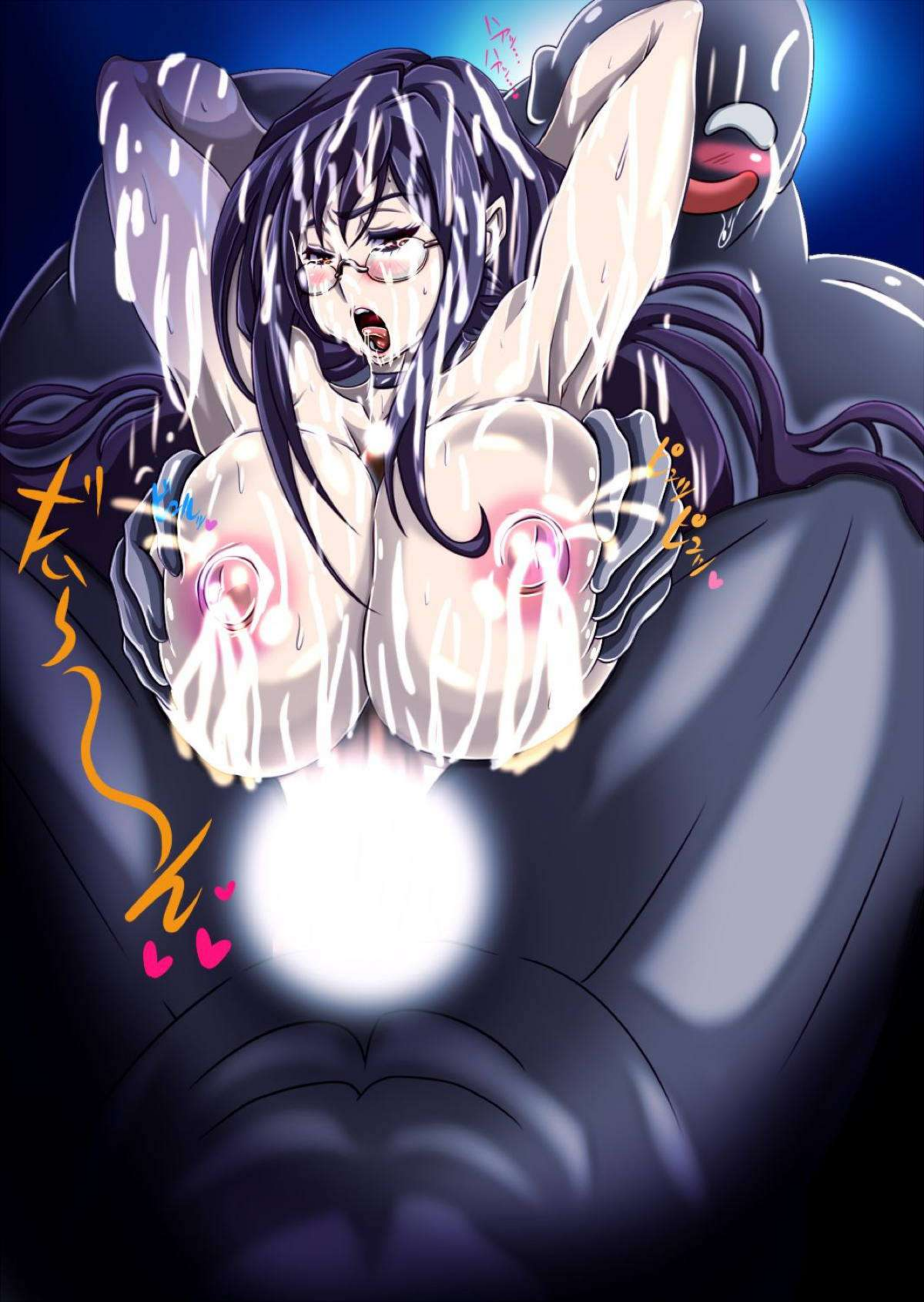
『声が裏返るほど気持ちいいのかW下変態め♡』

おらっ、イケよオッパイ、イキたゆるんだる♡』

『んおお♡いやああ♡イキたく…』

イキたくないい♡

人間に見らッ…見られたくッ♡』



「ンおお〜♡」

「すげえ出たWさっつきより濃い男汁♡ヤバえ、マジ収まんねえぞ♡」
「ビビビ♡こっちも出たなあ♡バケモノ汁♡」

「はく…♡あぁ〜♡やぁぁ♡」

「恠ここにあらずだなW呆けてやがるぜ」

「だがそんなの関係ねえ、まだまだ夜はこれからだぜえ♡」

「おっばいが、あ…熱い…それにこの匂い、鼻に…」

「あぁっ…頭の中まで汚されてるような…♡あぁん♡」



IV 話







んんん♡

んんん♡

んん♡

んん♡

んん♡

「んっ…♡んぶっ…♡ふぐっ♡んんう♡」

「おおお!!すげえぜこりやあ!!」

睦の中又ル又ルトロトロで

絡みついてきやがる!!別の生き物みてーだ!!」

「おふっ♡んんう♡あふう♡」

「口の中もすげえぜ♡こいつ、嫌々と見せかけて

すげえ舌で又ブツツてきやがる♡

まるで女子小学生がおいしいツフトクリームを

むしやぶりつくようなように!!」

「言わずもがな乳の中もすごいぜ♡

こんなにかわらかいおっぱい人間じゃだせねえかも♡」



くっ、好き勝手言っ…♡



「んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」

「うおお!!腰止まんねえ!!」

「どんどん絡みつきが激しく...!!」

これじゃあもう普通の女なんてもう

抱けねえぜ、ヤミツキにならちまう♡」

「はぶっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」

「だ...ダメだ!!も...も...!!」







あ

んあ

んあ

んあ

く

んあ
あ



「んあっ♡あああ……♡♡♡

あゝゝ♡♡♡

「ハハハ♡汁まみれでイッてやがる♡」

「余韻で今、3回はイッたぜ♡」

「ハハツ♡とんだドMでド変態女だ♡

あ、バケモノかWたまんねえ♡ぜ♡」



「はうっ♡あぶっ♡♡」

（くっ、好き勝手を……!!）

「やべWまたブツ勃ててきたW続きだ続きW」

早くコイツラから逃げないと……くっ♡♡







うんうん

あう

アウ

アウ

♡



んっ

はあはあ

アッ

アッ





『もしかしてチンポ欲しいのか？』

そういう時はどうおねだりするか

わかってるだろうか？』

アツク

アツク

















「ゲへへ♡壮大にイキやがったぜ♡」

「くくく♡らんなところから汗が出てやがる♡」

「ツツツ♡♡♡」

「ビビビ」

「ど〜れ、どんな感じかなあ♡」







ああ

オオオオオオ



5

真実



「くっ、何のつもりだ、こんな恰好させてツ!!」

「へへへ♡目覚めはいかが? ハハハ♡ええ♡」
「くっ!! 見るな貴様らツツ!!」

「ばっかッ♡そんないいケツを目の前にして」

「見られずにはいられるから♡」
「うっ♡」

「今回も楽しませてもらっ♡ぜえ♡」





「んんっっ♡」

「うひょ〜♡やっばやわらけえ♡てか、こりやあ、

昨日より柔らかくなっでんじやねえのか♡?」

「ううっ、言うっなあ♡」

「まさか今から犯されることに

期待してるんじゃないだろうなあwへへ♡」

「ちっ、違うツツ!!そんな訳っ…!!」

「ハハハ♡バケモノにも可愛いところあるじやねえか♡

今日もいっばい可愛がってやるぜ♡」

もんた





はっ
ああ

おっぱい

Inuy

X

→

~

X

!

「はっ……♡ああっ……♡」

（ああっ……♡やっぱりすぐおっきい……♡）

あんなのがまた挿入されたら私はっ……♡

「んんん？随分もの欲しそうだな♡」

もしかして早く挿入れてほしいのか？」

「なっ……♡何をバカなッ!!そ……」

そんな下品なもの♡誰がっ……♡」



「は!!?」

ツ

「な…なんで…」

「ん…?どうしたのカナ…W?」

もしかしておチンポ欲しかったのかなあWWW」

「そ…そんなわけ…♡くうっ♡」

「急に弱々しくなっただなあ♡その顔、

欲しがってるぜ♡♡シラララ♡♡」





「んうう？どいうしたあ？♡おつゆが

どんどん漏れ出してきいてるぜ♡」

「うううう♡くくツ、

ううツ！！言うなあ！！」

「本当の本当の本当はチンポ欲しいんじやないのかい♡」

「んっんっんっんっんっん♡」

そ…そんな訳ないツ！！そんなっ、そんなあツ！！」

「言っておいて、お尻がどんどん汗ばんでやがるぜ♡」

「面白くも溢れてきいてやがるぜ♡」



「くっ!! 調子にのるなツツ!!

だれがそんな汚らわしいモノなど!!

身の程を知れ!!! 貴様ら!! ♡」

「...くえ...そんなこと言うんだ ほ〜ん...」

「!!!?」





!!!?

「な…どうしてやめっ…」

「んん？どうしたあ？残念そーな顔をしてw」

「そ…そんなこと…♡は…♡うう…♡」

「さっきから落ち着きがないぞお♡モヅモヅさせて♡」

「そんなにお尻構ってほしいのかあw？」

「顔真っ赤だゼエw♡」

「は…う…♡ううう♡」

「けど残念だぜえ、本人がああいうんだからなあ、」

「レディーwの発言は尊重しないなあ」

「なっ…えっ!!!」





ん...っ

あ...っ

あ...っ

あ...っ

モゾモゾ

「あっ……♡ああっ……♡あうっ……♡んんっ……♡」

「んんうw?どうしたあ?悶えてえw今日はもう終わりだぜ、よかつたなw」

「あうっ……♡ふう……♡はああっ……♡その……♡」

『オイオイどんどん溢れてくるぜw大丈夫かwww』

『……いれ……いれ……挿れて……♡』

「アアン?!何?!聞こえない!!?」

『お……わたしの……その……中にいれ……挿れて……♡』

「はあっ!?!わけわからん!!?」

挿れんな言つたのテーマエだろ!!?」

（ううっ……♡）

「こういう時はどうしたらいいのっかな……ええッ!!?」

『……ごめんなさい……ゆるして……』

「安く見てんのとちやうぞ、淫亂が!!」

具体的にどうしてほしいか

言わんかいボケエッ!!」

『……wwwwww……』



「お願いしますツツ!!

小夜の…小夜の下品で品のない

卑しいトロトロドMな

バケモノマンコに

貴方がたの高貴で大きく雄々しく

ぶつといおちんちんで

小夜のドMなバケモノマンコをいっぱい、

いっぱいかき混ぜてくださいださいますし!!



』



我慢

もう、

の
お

で
き

も
お

♡

な

♡

い

♡



『よく言えましたw』

ん
お
お
っ







「んあっ♡あッ♡あッ♡あッ♡はッ♡ああっ♡」

「うおおおお！ピストン止まんねえ！！」

くうッ♡くそうっ！！何でこんなこととに…♡

でも♡でも♡私、い…今すぐく気持ちいいッ♡

「はああううう♡んあああッ♡」

「そっちもノッテきたなW♡♡♡♡♡」

「んおおっ♡」

「んおおおおおおおお♡」



!!!

あーっ
はっ
あーん

あーっ

「あんツ♡はんツ♡ああんっ♡」

はッ

!!!

ッ

「観ている俺達には

もお我慢できなくなっ
てきたぞぜ」♡





『な・ん・じ・ん・♡なんだ貴様たちそれは!!?』

そ・そ・そん・な・モ・ノ・♡私に向ける…あつあぐツ♡』

『♡♡♡♡♡そう言いつつ、なんか嬉しそうだな♡』

ええ？本当は俺達に精子かけられて

俺たちの精子まみれになりたいんだらう？』

『そ・つ・…♡そんなわけっ♡』

!!ツ♡♡♡♡♡

あ・あ・う・ツ♡♡はあっ♡』

『♡♡♡♡♡声が上ずんでるぜ♡今から一斉にブツツツ!!かけてやる♡』





おあ
あ
あ

んあ

おあ



毛猫...

お尻

お尻

お尻

♡

「んっ♡んんっ♡ぶっ♡」

（く…臭い…♡すごい異臭…♡）

頭が…頭の中まで犯されて…♡ああっ…♡）

「うへえ♡いっぱい射精たぜ♡うっはWすげえ臭うWクツサ♡」

「さすがに今日はここまでにしようぜ♡まだまだ時間はあるんだ、

この居場所も文人のサド野郎にはバレねえよ」

「そうだな♡さすがにこんな汁まみれは犯すのが厳しいぜ♡エロいけどな♡」

「しかしサヤチャン、いいなオイ♡」

バケモノとわかってても惚れちまいそうだぜ♡

スレンダーで乳もケツも極上♡そして

長く息が続く声がコイツの腹の中で響いて、

それだけでチンポ搾りやがる♡もおヤミツキだぜ♡」

「声いいよなW太くも高くもなつてよ♡まさにナナ色の声だぜ♡」

「今の話だけだと2色しか出てないけどな」

「こまけえ話はいんだよWああでもまた明日が楽しむだぜ♡

サヤチャン♡またポクの極太チンチンでいっぱい

アンアン言わせてあげるからね♡」

「…はっ…♡うううっ…♡ああううっ…♡」

「ハハハW完全に余韻でまたイってやがる♡ああ、もう待ちきれねえぜ♡」



（そして、私はこの後、
また人間達にいいように
犯されてしまふのだっただ…
っただ…）





陸新話





「んあっ♡あんんっ♡はんんっ♡はううっ♡」

「くああく♡はくっ♡はああくううっ♡」

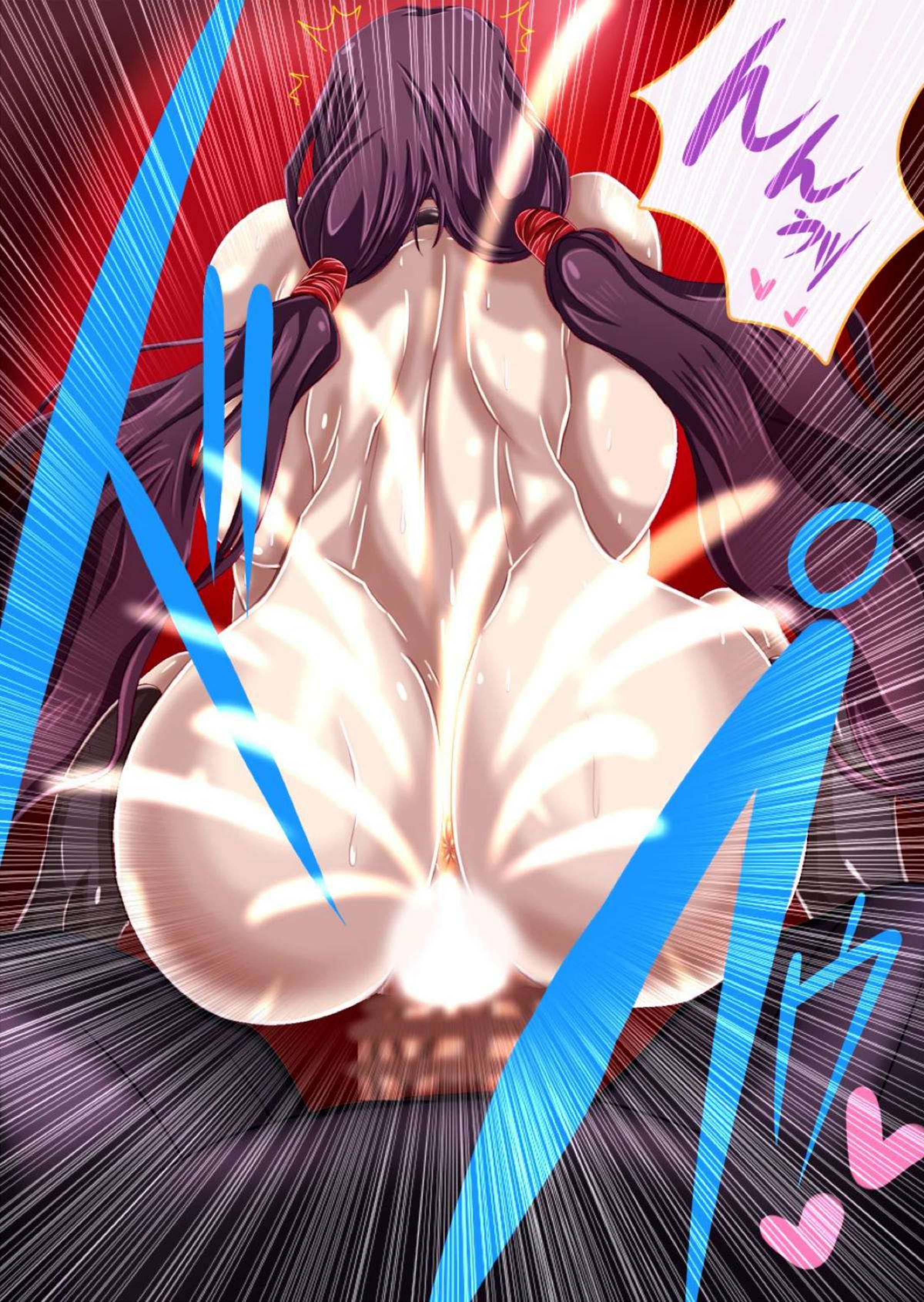
「はっ♡はっ♡あうく♡んああッ♡」

「くるッ♡そこっ♡そこッ♡いっ♡いっ♡」

（もうなにも考えられないっ♡考えたくないっ♡このままっ♡このままっ♡）

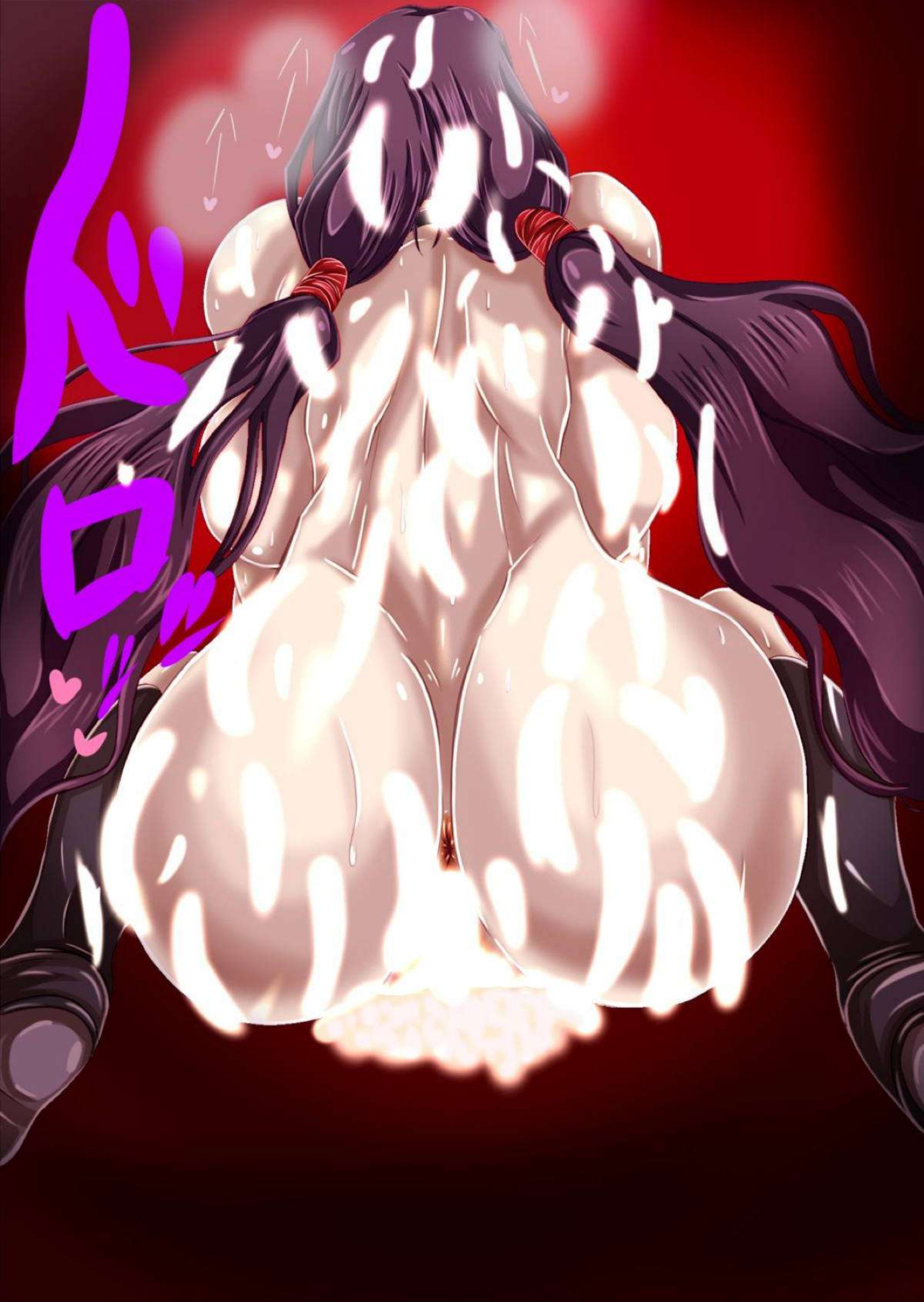
「やべ♡俺ももう!!中だしッ!!止めランねえ!!♡」





んんん







「はっ♡あっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡」

「うおおっ♡確かに「ジュリ」をすげえ♡

昨日より絡みついてくっついてる♡」

「んんぐう♡おんじい♡んはああああ♡」

「くう〜♡バケモノサヤちゃんシマル〜♡」

「んおおっ♡んおおおお♡」

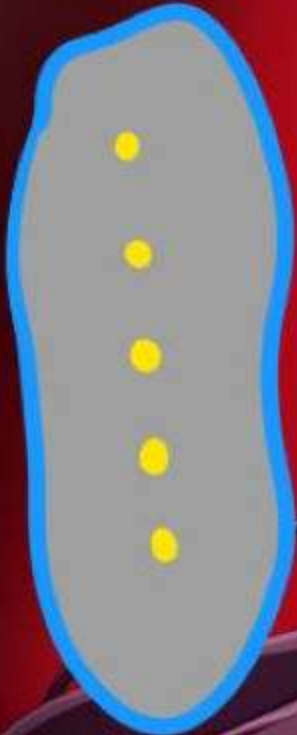
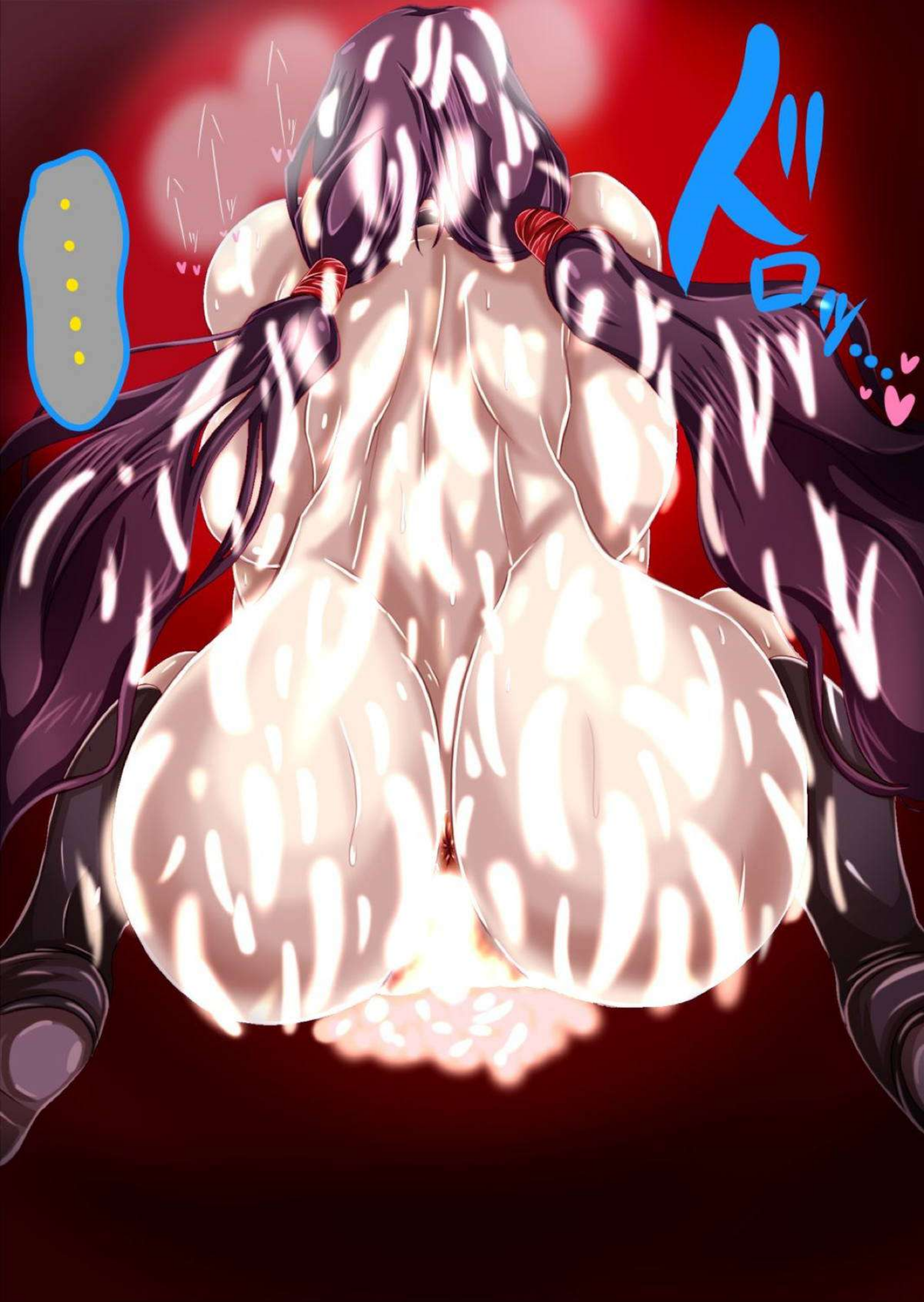
「うおお♡だめだ♡俺までりゅ♡」



てゝるゝ

ん
ん
ん





心







はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



女

子

新話。



「クツ!!」

（人間達に捕まっって、もう何日たったのだから、

これ以上こんな奴らにいいように

されてたまるものか……今度こそ……）

「……お目覚めのようだな♥では早速今日もやろうぜ♥」

「お前達、いい加減にしる、こんな恰好させようが

その場でのみ屈服されようが私の心はお前達なんか……」

「……♥今日はなあw」

「貴様たち……!!」

「……♥悪かったよ、

そう怒るなよw今日は本当に犯さないから安心しな♥」

「なら今すぐ私をここから出せ、今なら殺さないで置いてやる」

「できもしないこと言うなよw

滑稽だぜw w w人間は殺せない

バケモノw w w」

「……文人のことが片付いたら必ず殺しに行つてやる。」



「!? なつ、なんだ貴様ら、」

「そ…そんなものをだして…それで一体、♥何を…♥」
「へへへ♥物欲しそうな顔してんな♥」

「そ、そんなこと…♥」

「今からサヤチャンにみんなで何回
ブツかけられただけイクかやろうと思っただよ♥」

「な…何だと…」





「うぐつ!! や... やめるお♡」

そんな汚いモノで私の胸をこすりつけるなア♡」

「その汚いモノで何回も犯されイカされ、

かけられ、懇願したのは誰だったかなあW」

「いい... いわないで...」

「ハハハ♡いきなり潮らしくになりやがったW

いいいぜ♡サヤチャンのそろういとうとこ大好き♡

勃起ギンギンだWWW」

もろい

くそろう!! くそろう!! くそろう!!!」

!!!」





「ああっ♡」

「いいよその顔♡たまんないよお♡」

「シコる手が止まらねえ♡イクイクイク♡」

（だんだん動きが早く…♡射精るの？）

今から私、こんなクサそうなモノに

いっばいかけられちゃうの♡

「でるでるでるでる♡いっばいッ…!!」

いっばい濃いの出すよサヤチャン♡

受け止めてエ♡

「い…い…いやっ♡やめてそんなのお願い…♡」



んんん

んんん

んんん

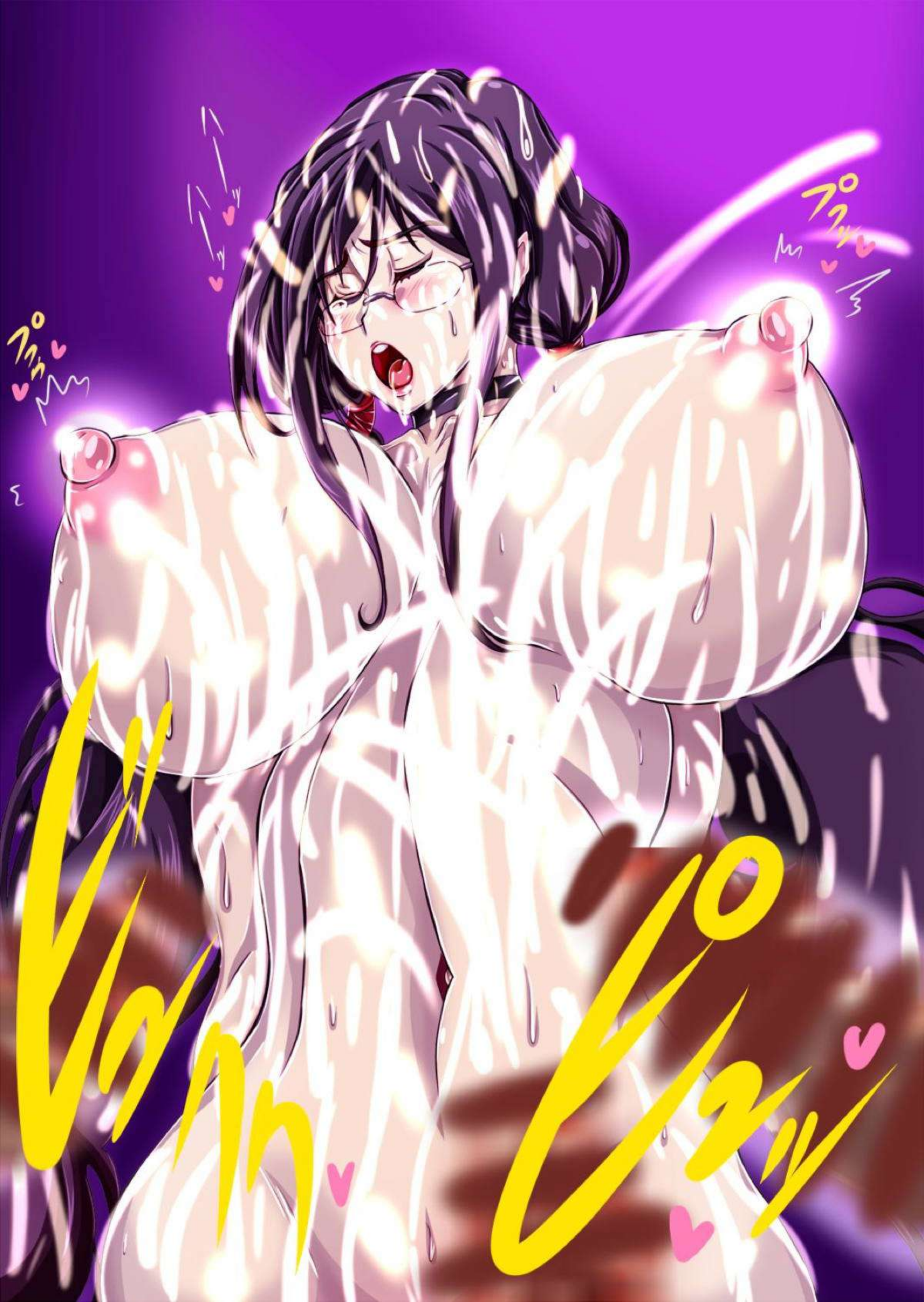


「ウツへエ♡たまんね♡えつる♡」
「気持ちよさそうないい表情すんじやねえか♡♡♡♡♡」
「ハーツ♡ハーツ♡…んんう♡♡」

「くく♡ぞんかけで行くらゼ♡」











「ハツハハツ♥かけられて盛大にイキやがった♥」
「やっぱ淫乱下Mだな♥また勃起してきたぜ♥」

「もろもろと自濁まみれにしてやるからぜ♥」
「おお♥」

（はっ、くっ♥んんう♥ああっ♥いやあ…♥凄いいい…♥熱い…♥）

















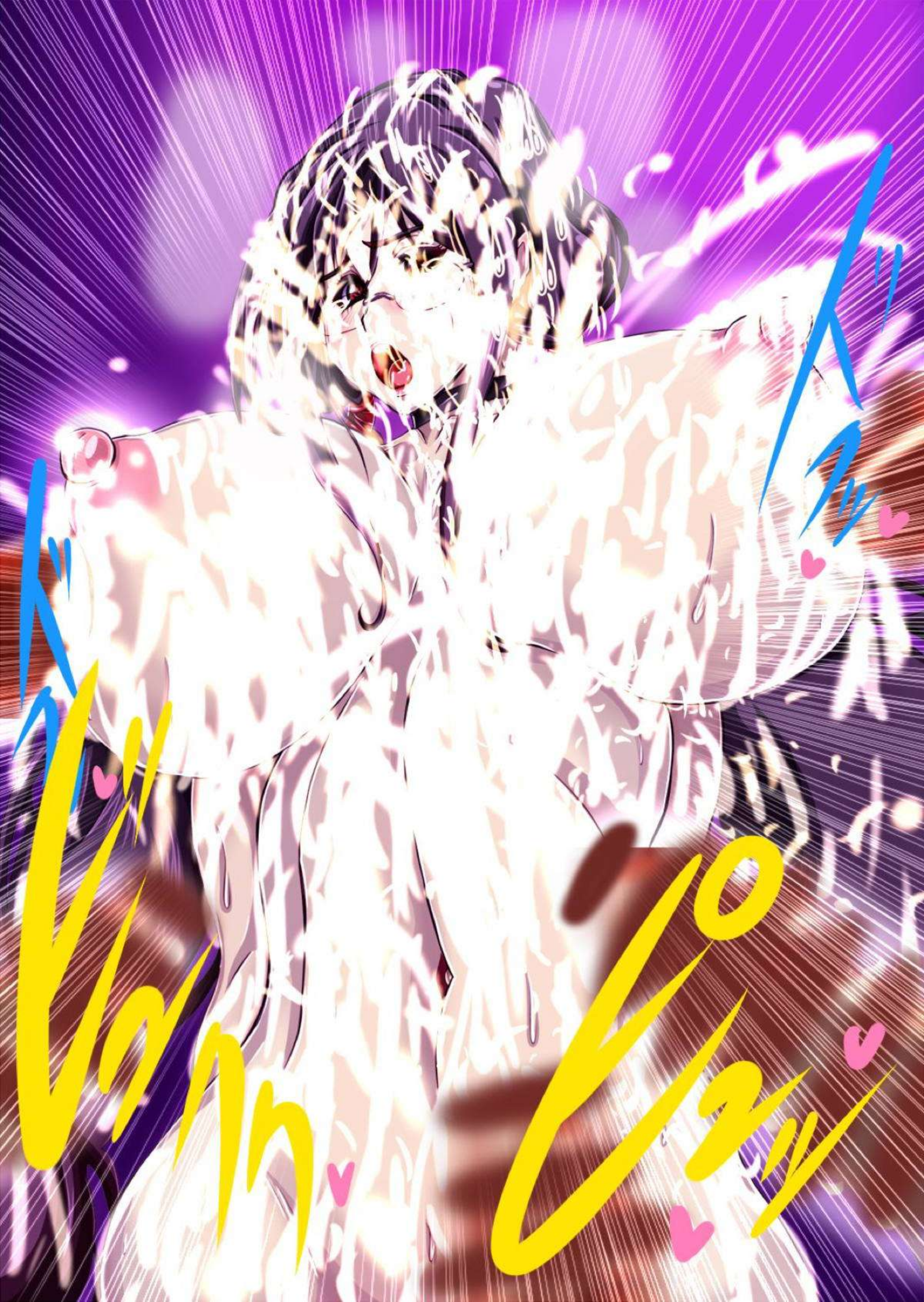
.....

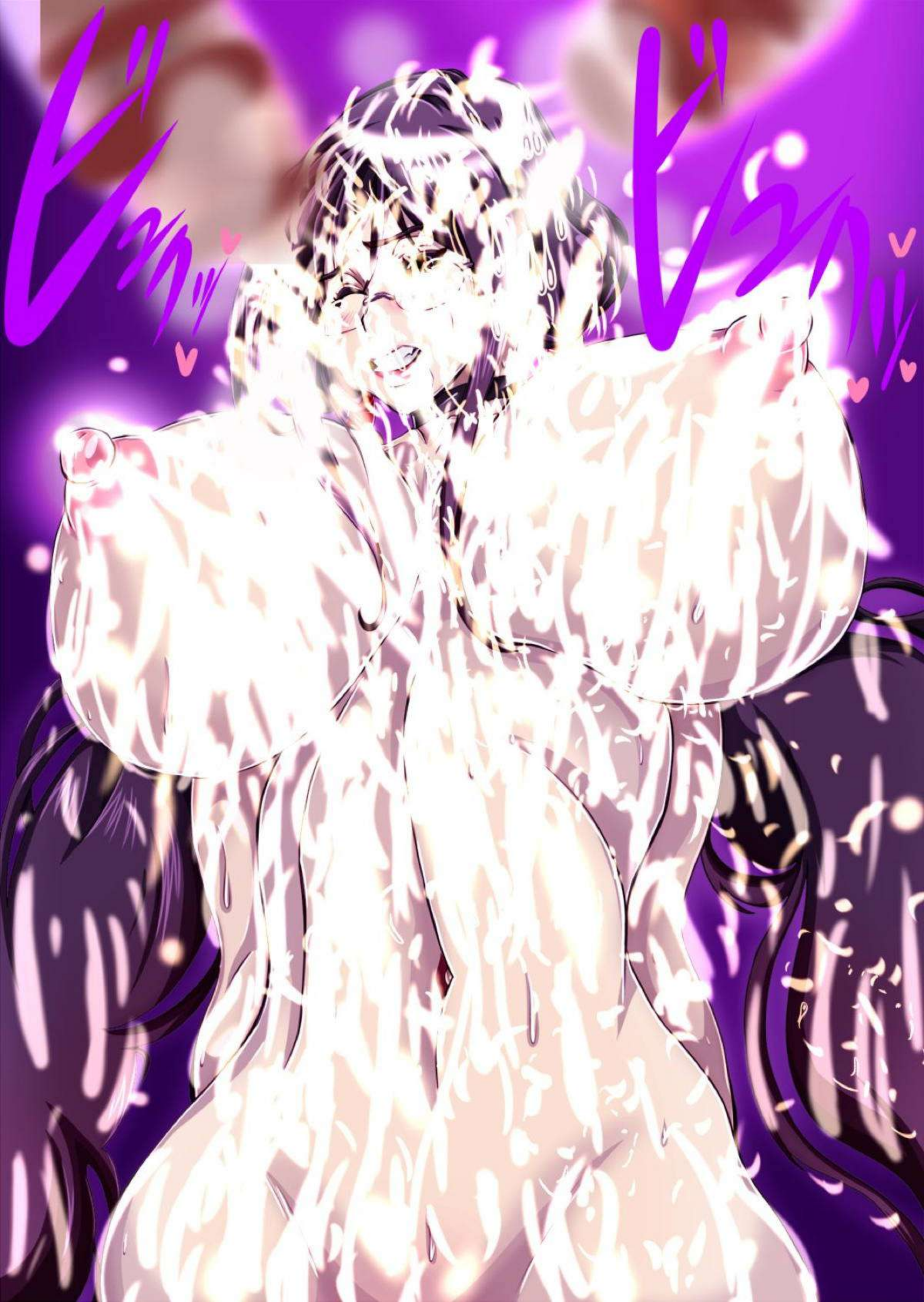
ホッホッホ

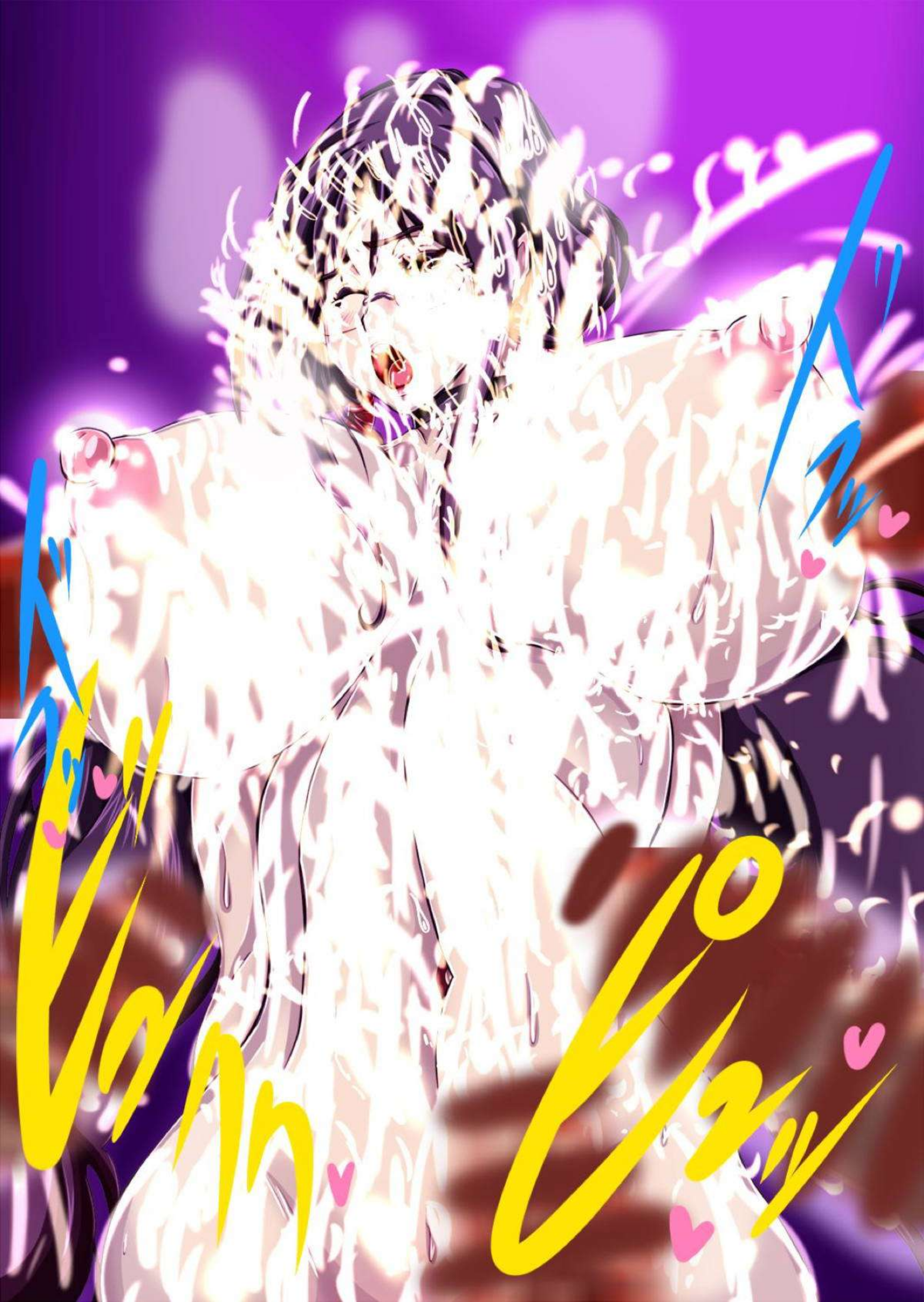
















.....

ホッホッホ



VIII 話





あぐ

は

ん

しゅ
ちゅ







はぁあ

アッ



『はははは!! ららよららよ〜♡よ〜くできました♡』

『ハアツ♡ハアツ♡はあつ…♡』

『ビヤハハ!! あんなに俺達を

汚い物扱いしていたサヤチヤンが

俺たちのスペルマを丸呑み

しやがったぜえ♡♡ビヤツハハツ♡』





『あ……あう……♡』

『チンポ欲しいってか？ハハ♡ドMで

チンポ狂いのメス豚めw

あの凜としたサマはどこへやら、

すっかりナリをひそめちまったなあ!!

いいぜ♡いっぱいチンポやるよ♡』







「ハハッ♡口に来ると思っただかW?

残念W次は胸で頼むぜ♡」





「はあっ…♡はあっ…♡はあっ…♡ああっ…♡」

「おっ♡ハハッ♡そんなにチンポ欲しいか？」

ガンバレ♡ガンバレ♡♡

「はっ…♡はっ…♡はっ…♡」

はっ…♡ふむっ♡

「乳だけでイカせられたらチンポやるよ♡」

「はうっ♡ううっ♡ううっ♡」

「うおっ!! おっぱいの動き、
すごっ!! これはツツ!!」

「ああッ♡んああッ♡」

「ああああっ♡」



あッ!!

んっ!!

あッ!!





あ
あ

キ
口

『あ……♡はあっ♡ああっ……♡』

『ピヤツハハツ!!もうイッてやんのW』

『仕方ねえたる!!サヤチャン』

エロ過ぎ上手すぎ可愛すぎなんだよW』

『しかし、舌も使わず、

胸だけでとか中々……やっぱ才能だな。』

『あ〜もお♡どんどん惹かれていくぜ♡』

『…ツ!!あ、あのツ…!!』

『んん?ああWわかってる

わかってる♡

チンポだよな♡

しっかし可愛いなあサヤチャン♡』



「んう♡ふむっ♡あむっ♡」

「ハハッ♡おい見ろよ」

「一心不乱にチンポ」

「舐めてやがるぜW」

「よっぽど欲しかったんだなWチンポ♡」

「んぬっ♡あぬっ♡はあむっ♡」

「へへ♡あれから数日経つがチンポ好きに」

「なるのにそう時間もかからなかったな♡」

「文人もこれを見たら」

「ブチギレオナニーが止まらんだらうな♡」

「はあうっ♡あああ♡」

「…チンポ美味しい？」

「んちゅ♡美味…しい♡」

「…控えめに言って可愛い♡」

「一生懸命舐めちやっつてまあ♡」

「1週間前のサヤチヤンが」

「1週間後にこうなることなんて」

「思いもよらなかつただらうな♡」

「1週間前の」

「サヤチヤンに見せてやりたい♡」

「んぐっ!!んんーっ!!」

「やべ、もう射精そうだ!!」















現
高



「くッ!!」

「このアマツ!! チンポ狂いの演技して

俺達をだましやがった!!」

「あやうく、騙されて逃がすところだったぜ、このバケモノが!!」

「ッ:!! だれがお前たちの

不快なモノなぞに心奪われるものか!!」

「黙れっ!! よくもだましやがって、俺たちの気持ち

裏切りやがって!! マジで許さねえからな!!」

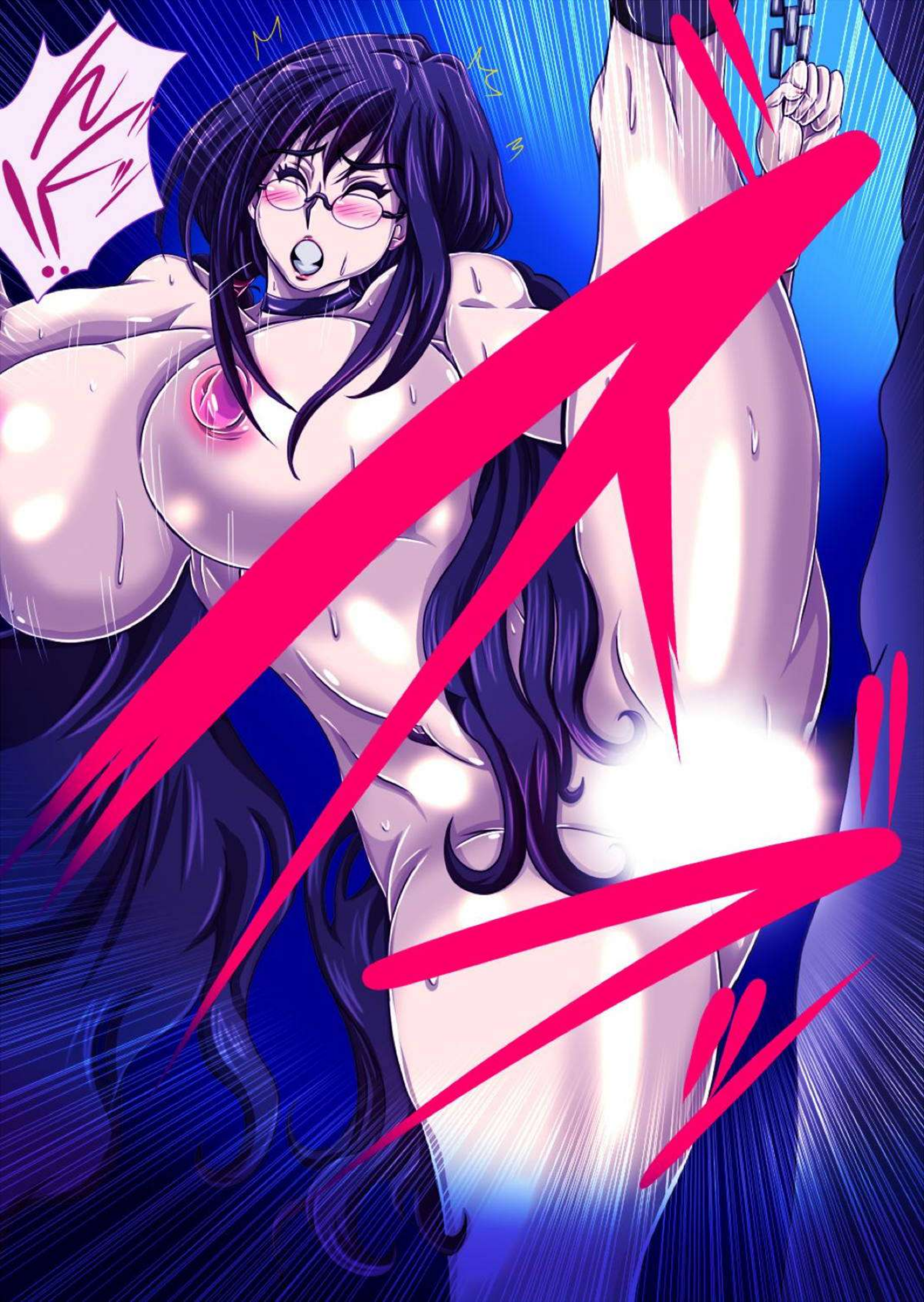
「くそっ!! いいから手錠と足かせを外せ!!」

「命が惜しければな!!」

「そんな恰好させられておいてよく言うぜ!!」

「人を殺せないバケモノ!!」

「もう容赦しねえからな!!」



んぐツ!!

「痛てえか!!? 苦しいか!!? 俺はもつと痛かつたんだぞ!!」

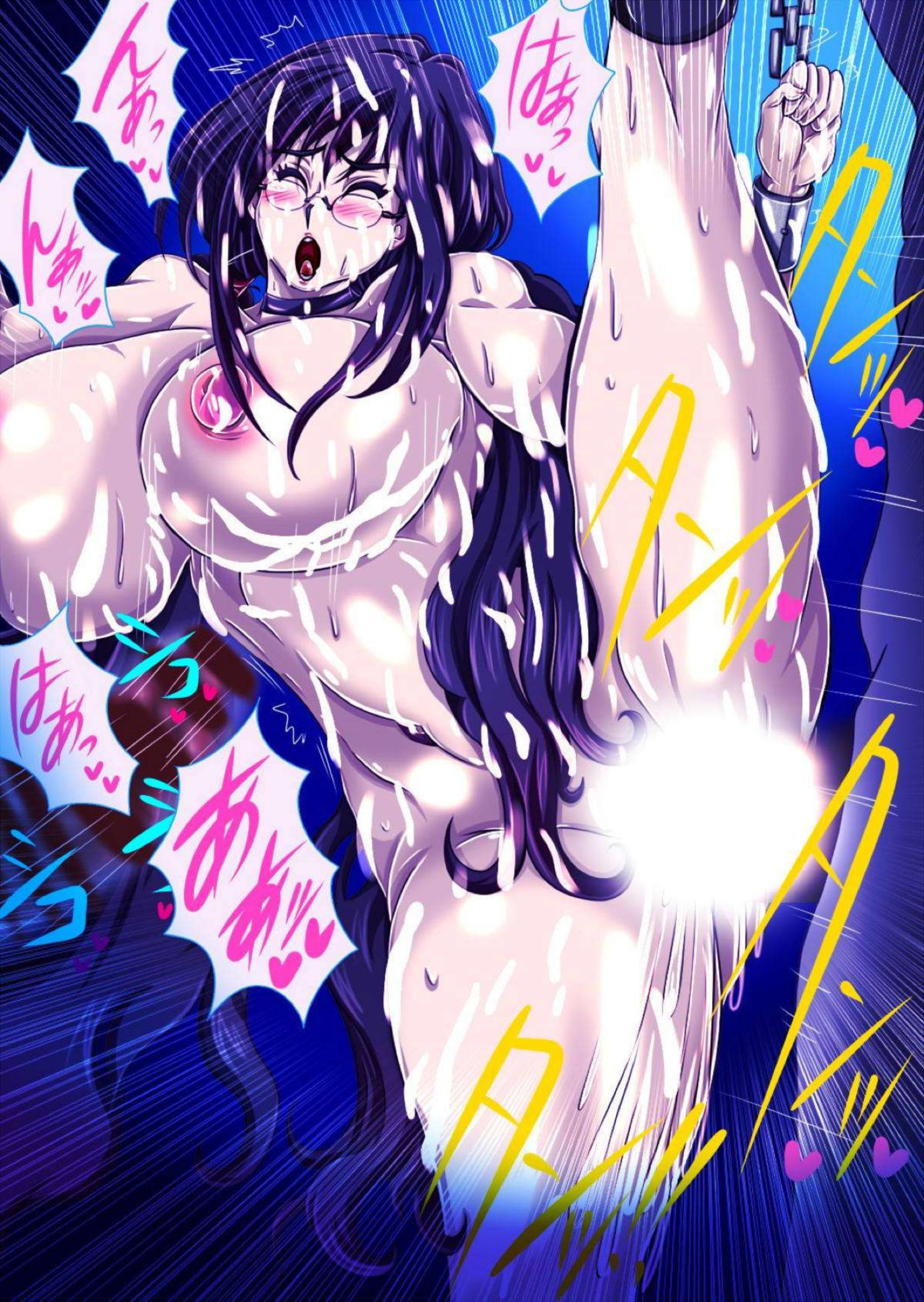
んくっ…!! 知ったことか!!

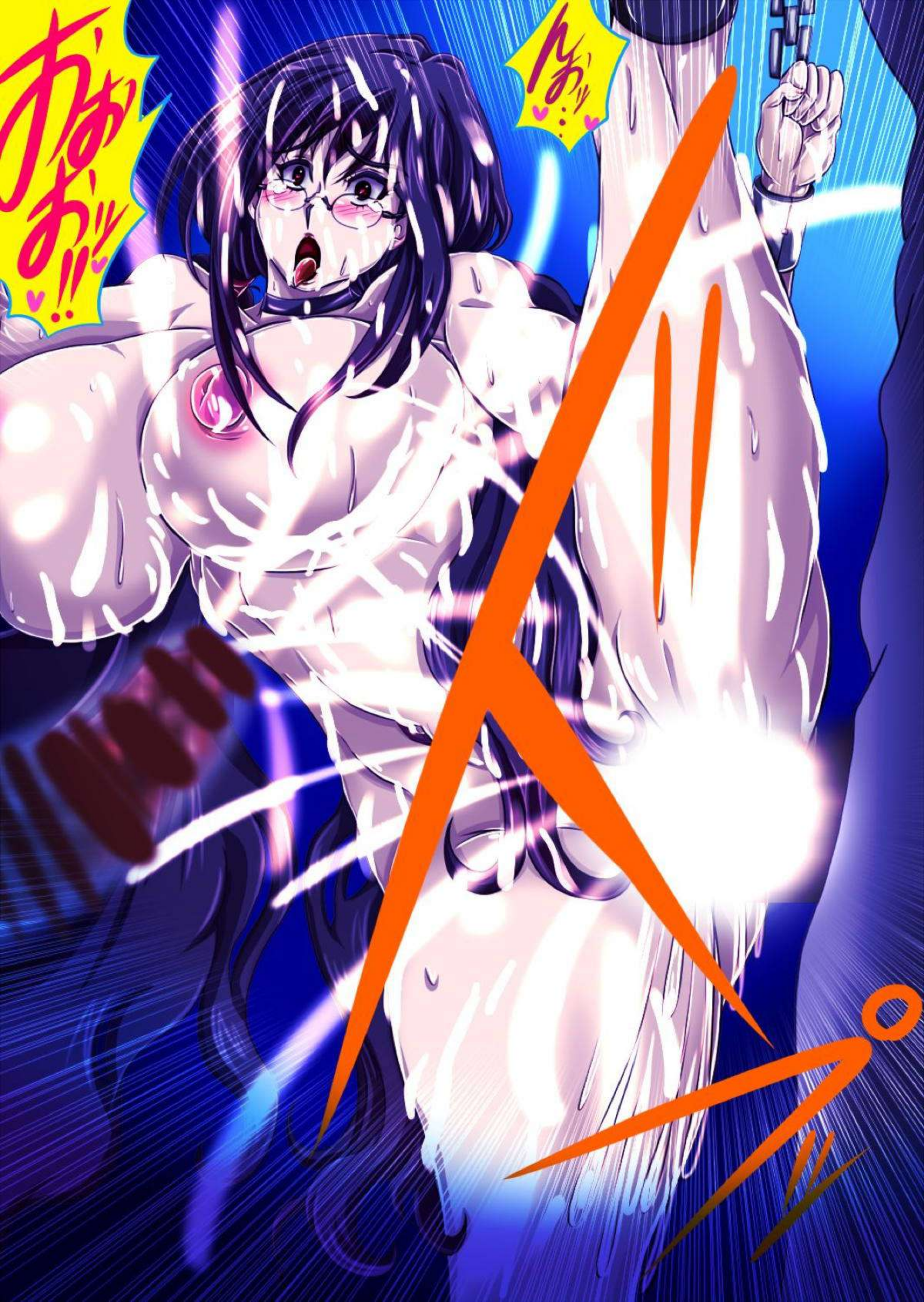
早く粗末なそのモノを…ああうツ!!」

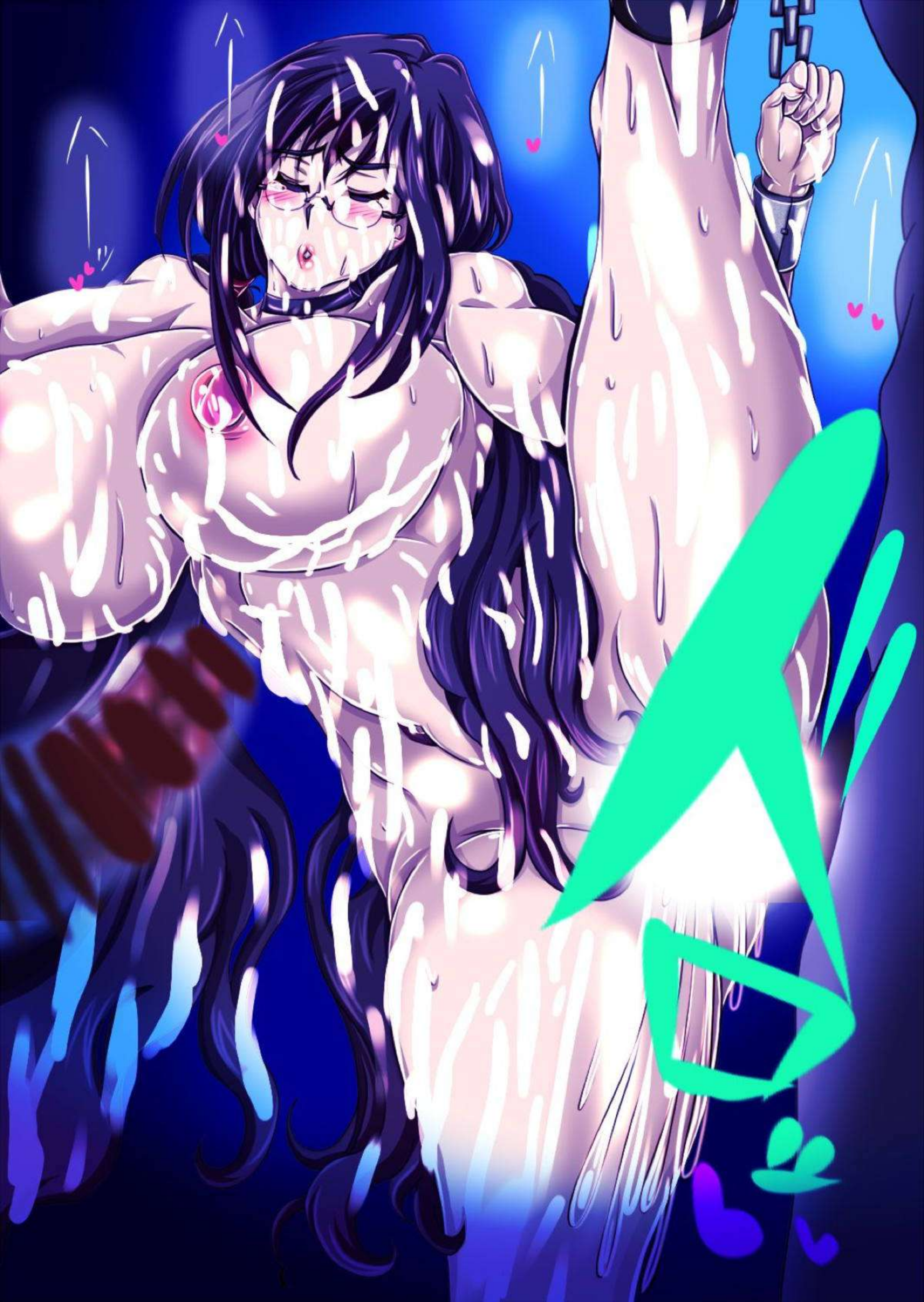


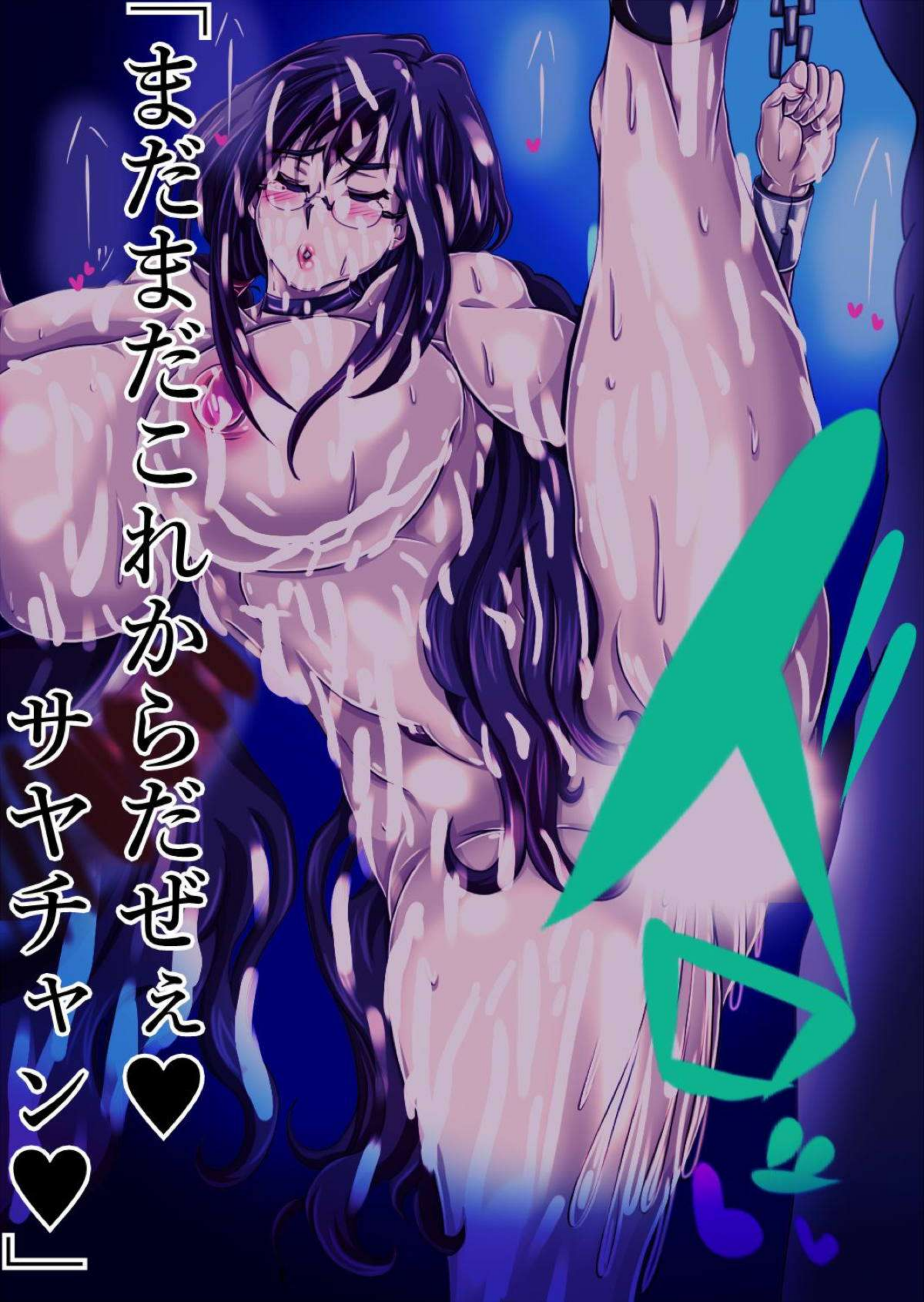






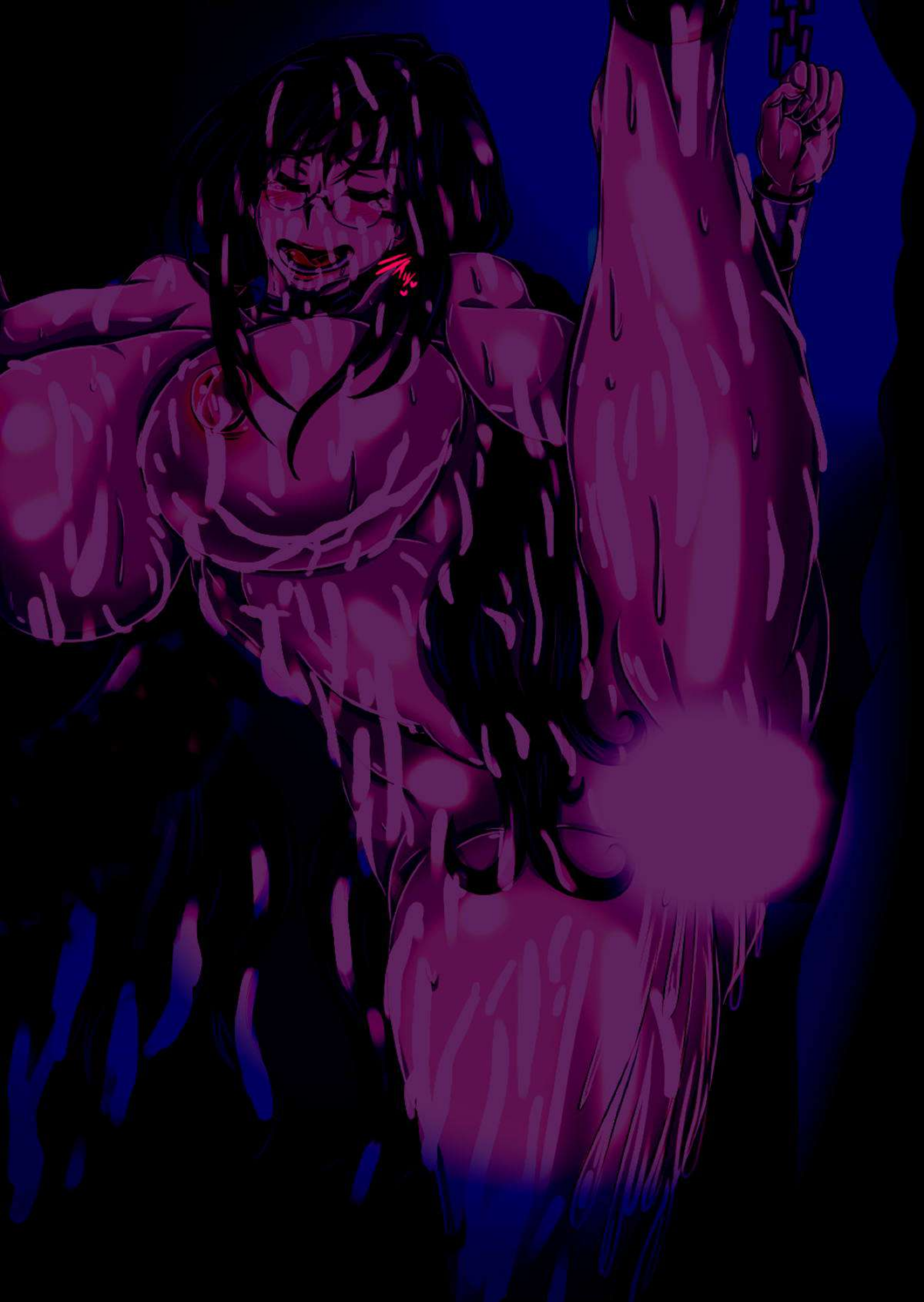






「まだまだまだこれからだぜえ♡

サヤチヤン♡





獸語

(10話)



「は……ううう……♡」

「くくく♡いい格好だぜ♡」

「は……♡ああッ……♡」

くッ♡ううう……♡!!」

「あんなに中出ししたのに、

あんなにイッたのにまだまだビクビク

チンポを求めてやがるぜ……♡くく♡」

「くうッ!!はっ……♡」

こんな恰好させるなんて、

キサマらッ!!」

「もうそんなこと言っても俺らの

チンポしか反応しないぜ♡

もしかして本当に愉しんでるのかなw?」

「そんな訳……♡」

「心なしか前よりおっぱいも

大きくなっただけ、もう我慢できねえぜ♡」



「んぐツ!!」

「口は何とでも言いつつも、

目に目にすんなり挿入るな、くくくく」

「だ…だまれツ…ツ!!んんぐツ♡」

「言葉で攻められるのが好きか?

膣が締め付けてきやがったぜ、

アソコもヌルヌルだ♡」

「ああッ…♡やめっ…♡」



ああ
うっ
♡♡♡

ん
あ
♡♡

あ
は
♡

タ
タ
タ

タ
タ
タ

「ああっ……♡はっ♡

んんああッ♡ああうッ♡

「うおおお!!腰止まらん!!

俺の意思とは関係ないようだぜ!!」

んんおっ♡♡

「あんッ♡はああんっ♡

んおおおおおおおッ♡





『見てるだけで興奮してきたぜ♡』
『オナニー止まんねえ!!』

んんっ♡くくっ♡

やめ…ろお♡

『ああ、もお出そうだ!! 射精しそうだ!!』
『いくぞサヤチャン♡』

膣で受け止めるよお♡





アッ

ド

アッ

アッ





拾志齋



「くっ、キサマら、

こんなフザケたポーズを

させて何のつもりだ!!」

「へへへ、ちよつとゲームしようと思っただけ。」

「ゲーム?」

「サヤチャンは俺達から解放されて、

文人の野郎を殺しに行きたいんだよな?」

「……」

「けど人間を殺せないサヤチャンは

俺達を殺せない、抜け出せないの

スパイラルだ流石に可愛そうと思った

優しい俺達はある提案をすることにした」

「……」

「そのピースポーズを維持したまま、

アへ顔で2回以上イカされなかつたら、

解放してやるというのはどうだ?」

「……」

「もちろん2回以上イカされたら

サヤチャンの負け、

永遠に俺たちの性奴隷として、

老後俺達が死ぬまで性奴隷として

生きることになるけどどうだ?」

「…ッ!! いいだろう、のった。」



「……ツ、くツ!!」
「へへ♡なんだよ、もう感じてるじゃねーか♡」
「う……うるさいツ!!」
「こりゃあそんなに時間かからねえなあw」

時間の問題だぜ♡」

「あつ……くっ♡なめるな、人間共!!」





（あうっ…♡挿入ってきたあ♡）

「んくツ!!♡」

「ああ♡クツツ気持ちいいぜえ♡

なんだよ腫ヌルヌルトロトロトロじやねえか♡へへ♡」

「だ…だまれ…っ…はあっ♡」

「へへへ♡もう勃起しちやっただぜ♡へへへ♡」

「うっ…!!そんなモノ、

わたしに向けるなあ♡」

「声が浮ついてるぜW本当は挿入れられ、

向けられて嬉しいんじゃないのか♡」

「キサマら…ツ!!」







毛弟

『ハハハ♥早速臆出し一発でイキやがったぜ♥チヨツ回♥』
『ううう…♥』
『くやし…♥…こんなことで…はああ…♥』

『かけられて悦に入っでやがる♥』

『こりゃあ次もすぐだな♥』
『この女子種大好きみたいだぜ♥』

『こりゃあ次もすぐだな♥』

早くイカせて性奴隷にしようぜ♥』





『くうツ!! なめるな!!』

誰がこれ以上お前たちの

チンポなんかにツ!!』

くうツ!!

『ほお〜う♡こいつは驚きだ

威勢を吐ける元気がまだあつたか♡

いつまでもつか楽しみだぜ♡』



15
分
後

11
回
目





「コイツ15分くらいの間は10回以上

イキやがったぜ♡2回どころじゃなかった♡」

「乳も久々に噴出したな♡♡♡♡♡元気してたか?」

「ア…♡アへ…♡」

「アへ顔までして、へへ♡コイツ

やっばただのドMオンナだぜ♡

あの時逃げようとしたのも、

ワザと捕まっつてこうなることを望んだんじゃないか?」

「ああ…♡う…♡」

（ち…ちがう…私…私は…♡）

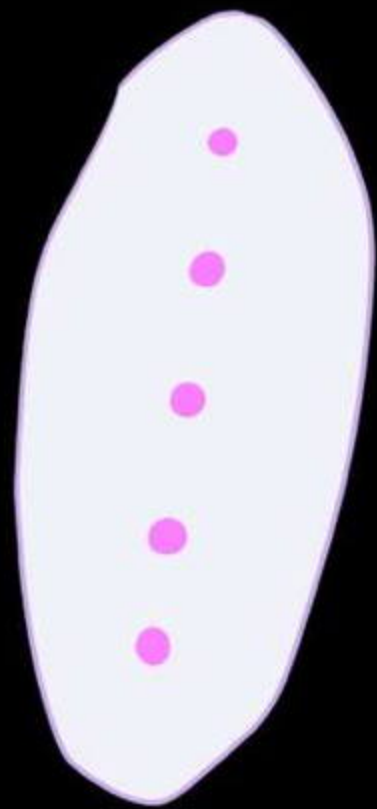
「頑なにピース維持してるのは萌えポイントだな♡」

「まあこれで俺達が死ぬまで性奴隷確定だな♡

最高の人生だぜ♡」

（は…あああ…文…人おお…）





最終話

「はぶツ!!んつくちゆ♡は…はあ…♡」

「ふうふう♡♡やっぱサヤチヤンの口まんこは最高だな♡」

「あうっ…♡ああっ…♡あああっ♡」

「とっっても熱くて…♡濃いですう…♡」

「美味しゆか♡?なら飲んでみせて♡」

「はいっ…♡あむっ♡あむっ♡」

「んちゅ♡んぐっ♡ううむ♡」





ビュ
ルルル
ッ
!!

「うおッ!! やべッ!! 射精る!!」

「……ッッ!! ふはっ……♡」



『あうっ♡あっあっあっ♡』

そ…それ以上ヨリヨリしちや♡ダヌツ…♡』

『すんげえ〜やわらけ♡へへ♡ぞんぞん柔らかくなるねサヤタン♡』

『はう…♡あぁあ…♡んあぁ…♡』



「あつ♡ああッ♡あッ♡」

「!!!?」

「やべえ♡気持ちよさそうなのサヤタンみてたらまた♡勃起してきた♡」

「サヤタンでる、でるよ♡また自慰のいっぱい出るよ♡」

「あ…♡ああ…♡そんなにたくさんのチンポ、

受け止めきれない♡」





⚡

사오이
코리♡



は...♡

乳



『ああ……う……♡はあ……♡』

『ああ……♡たまらんぜ、サヤチャン♡乳もお尻もたまらんなあ♡』
『は……う……♡さわる……なあ……♡』

『無理言うなよ♡こんなにプリプリなんだぜ♡』

『尻から手に吸い付くくらいプリプリだ♡』

『んああ……♡やあ……♡』











『おああ〜♡この尻圧がたまらん♡このスレンダーな身体にこの尻は反則だる♡』

『はあっ…♡ああっ♡んああッ♡』

「俺達も混ぜてくれよ♡」

「ああ♡いませ♡」

「あつあつ♡」

ポロ



『うお〜♡こりやあタルぜ〜♡』

『んムウ〜♡んっ♡んっ♡』

んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡んっ♡

『自分の腰が止められねえよお♡』

『んオオオ〜♡はぶ♡あうう♡♡』



『んおおん♡ああん♡ん♡ん♡』

んああああッ♡



『あああああつ♡あああ♡あああ♡』

『んあつ♡あああ♡あううあ♡』



『うむっ♡はむっ♡んんんああッ♡』

『ああ♡あくっ♡あうううあッ♡』

『うんんっ♡はうううううっ♡』

『あうあああッ♡』

『あうっ♡あうっ♡うあッ♡あッ♡』

『あああああッ♡』

あう

あう

『はうっ♡はうっ♡あっ♡は…激し…♡』

『ああうっ♡んあっ♡るああっ♡』

『ああっかああっ♡』

『うぐっ♡へへ、俺らもまた、もうッ♡』





「
お
お
お
!!
」

「
ん
ん
ん
♡
」

「おおおお…♡おおおおおお♡」



「んはっ♡ああああああ♡」

「あっ……あああ、
あっあっあっあっ♡」

「んうあああ
♡」





Blue stylized text with pink hearts.

Pink stylized text with pink hearts.

Yellow stylized text with pink hearts.





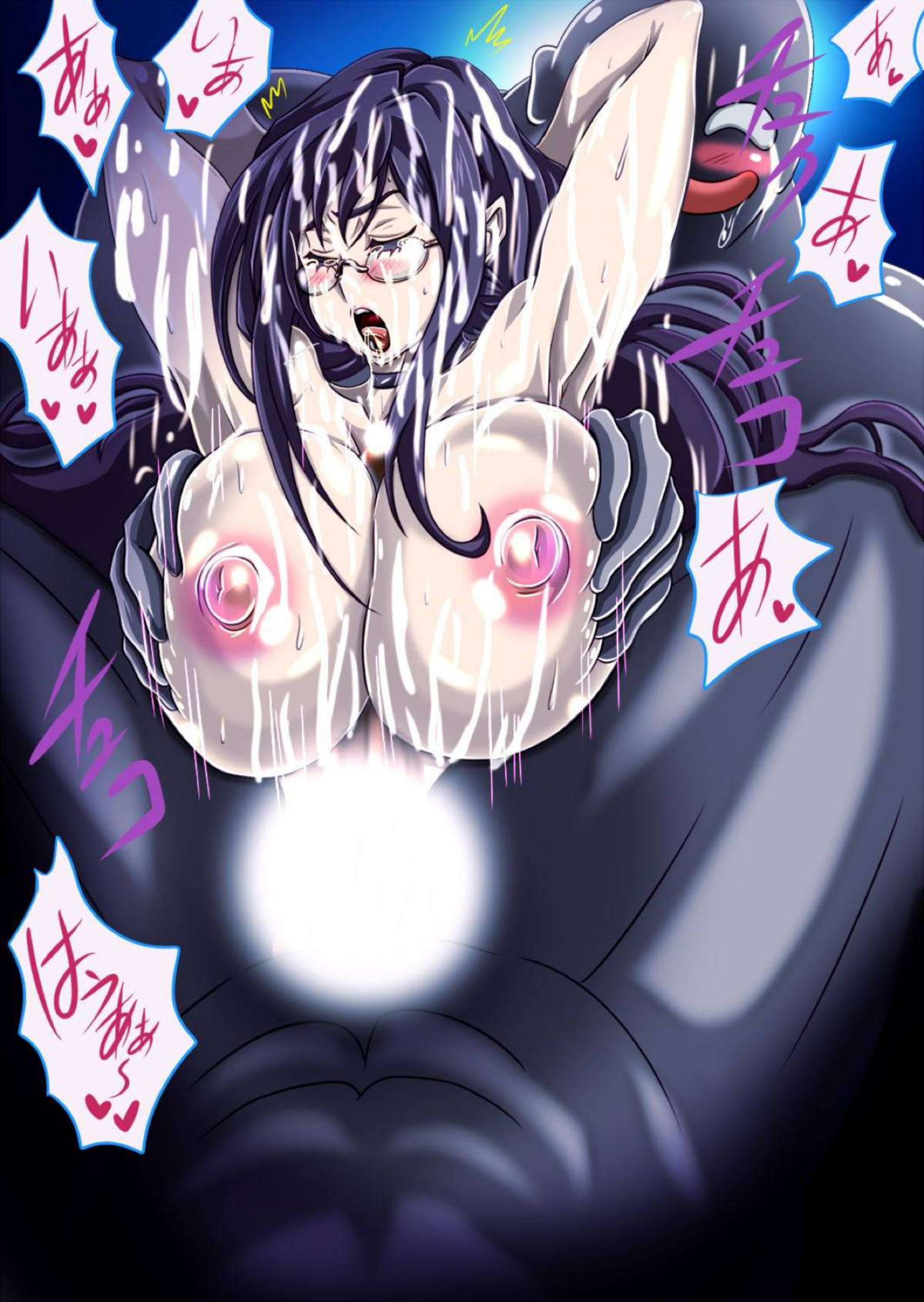


「あつ……あああつ♡すずい……いイイ♡

にいい♡あ……はあ♡」

「悦に入ってるどころ悪いが、
まだまだ続くぜえ♡」





あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

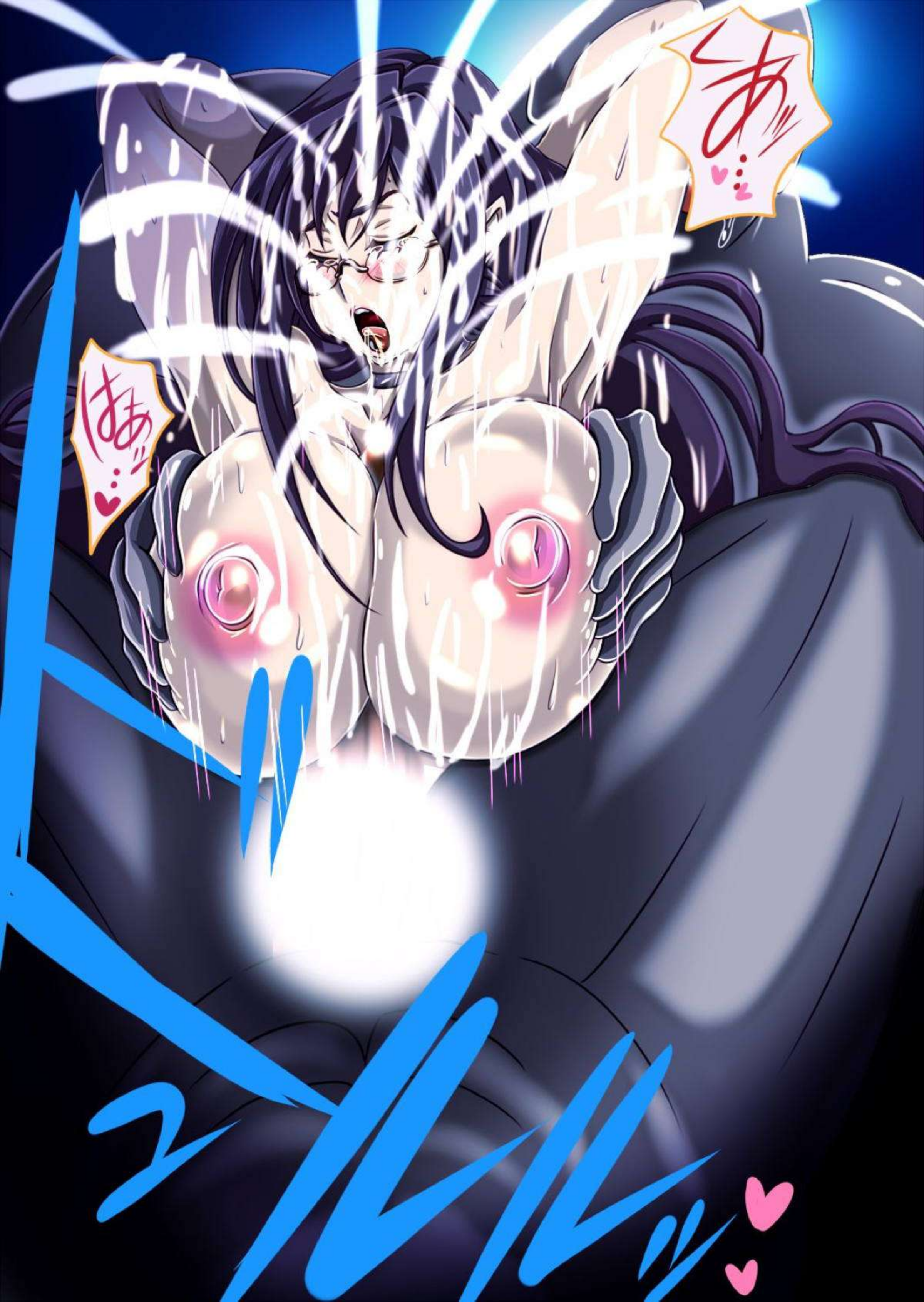
あゝ

あゝゝゝ

あゝ

あゝ

あゝ



あ

あ



「おらおら♥まだまだまだ終わんねえぞ!!」

「あっあっあっ♥

あっ♥あっあっあっ♥

あっあっ♥」

「気持ちよさそうな声だしおってw」





んあぁぁぁ

と
と
と

んあぁぁぁ

あぁぁ

ア

ア

ア





んんん

んんん...

んんん

MM

~



はっ

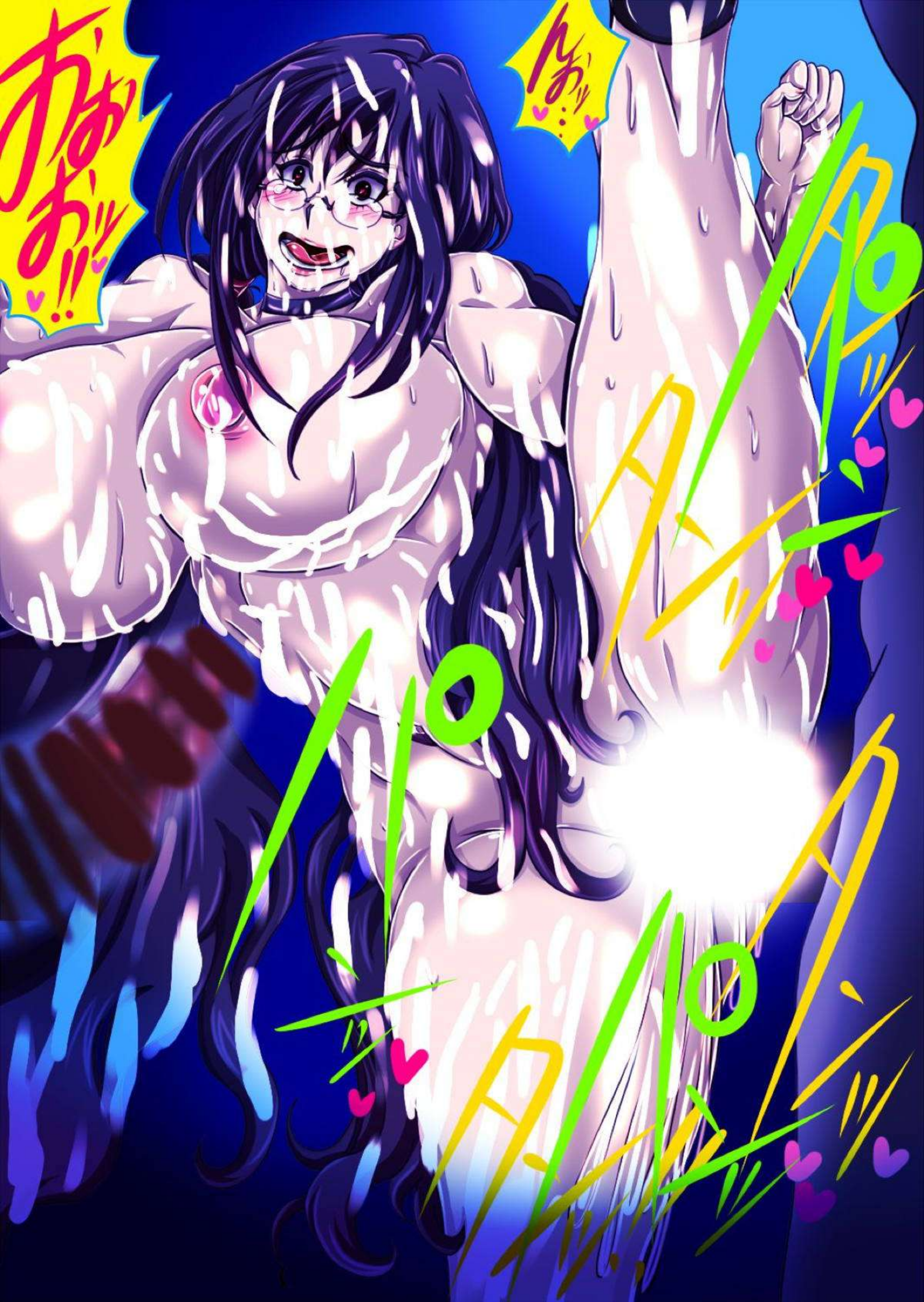
あっ

はあっ

はっ
はっ
はっ

あっ
あっ
あっ

あっ
あっ
あっ



あぁ!!

んっ!!



んか
おおっ
あっ



あああ
あああ
あああ

んあああ
んあああ

o

o

o



あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ



『あつ…あああつ♥あうあ♥』
『そうそうサヤタンその顔だよ♥ハイ・チーズ♥』

パシヤッ!!



『あゝ最高に可愛いよサヤチャン♥』

また犯したくなっっちゃった♥いい?』

『あむっ…♥はいっ…♥』

うれしいですう♥』





「ふう♡今日も犯した犯した♡」

「うへえ♡汁まみれ♡こりや後片付け大変だぜw」

「しかも主食が精液でマジでいいみたいだしなw

血のかわりっつてかw」

「しかもドMで乳もケツも最高でいうことなしだぜ♡

声もエロく響く低い声から、

甘い砂糖菓子のような声までなんでもござれ、

飽きる要素がないぜ♡」

「とある事情で人も殺せないみたいだしな♡」

「俺よ、うちにガキいるんだけど筆おろしに

このバケモノつかっていいかな？」

「いいねそれ♡うちのガキも呼ぶわ♡」

「サヤチャンも楽しんでそうだし、

俺達も幸せだし、最高の人生だぜ♡ハハハハハ♡」



はあ...♡

はあ...♡

はあ...♡

「……………」

「あれからどれだけの月日が流れたのだろう…」
「あの男達に性奴隷にされ、犯され続け、」

やつらのつくった子供たちにも犯され…」

「結局あの男達が死んでも、その一族たちにも」

犯され続け、奴らが滅ぶまで私はずっと性奴隷だった」

「考えることをやめ、諦めることをしないで、」

ずっと耐えて、やっとなら解放された…」

「けど解放された先には目的はなかった…失った…」

「あれから何十年経っただろう、」

百年は経ったのだろうか？

今となってはわからない、

建物の形すらみな変り果て、

ここがどこだかもわからない。」

「私を知るものは本当に」

誰もいなくなっちゃった、

人も、恐らく古きものも…

…あの男も…」

「奴らの子種で生きながらえることができちゃった」

私も奴らがいなくなっちゃったことでもう長くない…

…あんなことはもうしたくない、

文字通り死んでもごめんだ」

「今、こうして意識をもって地に立っていることが
不思議なくらいだ、けど生きる目的がない、

……やるべきこと、為すべきことがない……

『何もない……』

『私にも孤独という言葉が当てはまったらしい、

辛いかどうかまではよくわからないが、』

『何もない……何もない……』

唯芳の顔すらもう思いだせない、

『私は……わたしは……』

「やあ、おそかったね…」

「…っ!!お…お前は…。」

「ずっと…ずっと、待っていたよ…小夜…」

「ふ…ふみ… …なのか…?」

「少し…すこし長くなっちゃったけど、

はじめようか…」

「あ…ああ…あ…」

「敗者には…」

「…罰ゲーム」

そして、二人は生きる、愛憎入り乱れ、そんな混沌の中、
確かに生きる、生き続ける。

いろんな想い、気持ちと共に、
それが幸せかどうかなんて誰にも、
本人たちにすらわからない。

けどそこに彼らが生き続ける輝きが
きっと、そこにある。

終劇

















